



神さまの愛がわかる 28の方法

アドベンチスト入門 for Kids!



はじめに

わたしたちの生活の中には、たいせつなものがいくつもあります。たとえば、家族や食べ物、空気などです。

わたしたちが、セブンスデー・アドベンチストとして、たいせつにしていることをまとめてみたところ、28ありました。どれも聖書の教えにもとづいています。

うれしいことに、わたしたちが信じるこれら28のことがらは、暗記する必要がありません。算数の問題や漢字の書き取りのようなものではないのです。むしろ、車やコンピューターの使い方を教えてくれるマニュアル（説明書）に似ています。これからみなさんにお伝えする28のことがらは、毎日を生きていくのに、なにがたいせつかを、思い出させてくれるのです。

これからみなさんは、次のようなことを学んでいきます。わたしたちは、神さまのやさしさによって、神さまといっしょにずっと生きていけるのですが、それはどのようにしてか。わたしたちは、神さまがしてくださったあらゆる良いことを思い出すために、週の1日を特別な日（安息日）としてすごしますが、それはなぜか。また、わたしたちが言ったり、したりすることは、なぜたいせつなのか——わたしたちの毎日の選びは、自分やほかの人たちにどんな変化をあたえるのか。さらに、これからやって来る未来や、神さまが聖書を通じてお伝えになっている特別なメッセージについても学びます。

けれども、もし、みなさんがこの本を読んだあとに1つのことしか覚えていないとしたら、それはこういうことであってほしいと、わたしは思います——みなさんがイエスさまにしたがう決心をするとき、みなさんの生活は愛とぼうけん、そしてワクワクするようなことであふれ返るということです。イエスさまにしたがうことは、最高の人生を選ぶことなのです。

みなさん1人ひとりが、天のお父さまに守られ、愛されていることをいつもその心に覚えていられるよう、おいのりしています。

セブンスデー・アドベンチスト教団
世界総会総理 テッド・ウィルソン

「なんで神さまを信じているの？」と、聞かれたときに、セブンスデー・アドベンチストの少年少女として、あなたは、28の答えを持っています。それは、これから学ぶ28の章で、1つひとつお伝えしていきます。あなたは、この学びをとおして、いつもあなたのそばにある力強い神さまの愛を、少しずつ知ることができるのです。

あなたの生活の中でよく見かけるものの中にも、神さまは働いておられ、あなたに新しい喜びをあたえようと待っておられます。

毎回、読みはじめる前に、「天のお父さま、どうぞあなたの愛がよくわかりますように、すばらしい時間をあたえてください」とおいのりしてください。

あなたが、神さまの愛の教えを、たくさん発見できますように！



第1章

聖書の言葉：「聖書はすべて神の霊の導きの下に書かれ、人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をするうえに有益です。こうして、神に仕える人は、どのような善い業をも行うことができるように、十分に整えられるのです。」
(テモテへの手紙2・3章16、17節)

かみ
神さまからの手紙
てがみ
— 聖書は神さまの霊感を受けた言葉 —
せいしよ
かみ
れいかん
う
ことば

きみは手紙をもらうのが好きですか？ おじいちゃんやおばあちゃん、友だちから手紙をもらったら、ワクワクするよね。1つひとつの言葉をじっくり読むのって、とっても楽しいもんね！

ぼくは今日、おじいちゃんから手紙をもらいました。おじいちゃんは、雪の上ですべって転びそうになったこと、えさ台の上の小鳥たちがものすごい早さで種を食べていたこと、先週おばあちゃんがかぜを引いてしまい、まだ鼻はグズグズいうけれどもだいぶ良くなったこと……などを書いていました。

また、おじいちゃんは、ぼくにいじわるをして喜んでいいる学校の友だちについて、良いアドバイスをくれました。ぼくは、そんなときどうすればいいのか、本当に知りたかったのです。ぼくはいつも、おじいちゃんからの手紙を楽しみにしています！

牧師先生が、聖書というのは、預言者や弟子たち、指導者や聖霊にみちびかれた人たちによって書かれた「神さまからの手紙」です、と言われました。聖書は、神さまがどんなお方なのかを知らせ、神さまがすべての人を愛しておられること、そしてぼくたちを罪からすくうおつもりであることを教えているそうです。ぼくはおじいちゃんから手紙をもらうまでは、その意味がわかりませんでした。でも今やっと、わかりました！ 神さまは、おじいちゃんと同じように、ぼくにお話を聞かせ、良いアドバイスをあたえ、どうすれば悪いことにあわないかを教えてくださいます。

使徒パウロは、コリント、エフェソ、ガラテヤなどの教会の人々に、愛の手紙をたくさん書きました。イエスさまに忠実でいなさい、とはげましたり、教会や家庭でたがいに愛しあうためのアドバイスをあたえたりしたのです。

もしきみも手紙をもらいたいと思ったら、ぼくのように聖書を読んでみてください。マタイによる福音書か、詩編から読みはじめるといいかもしれないよ。イエスさまはきみのために死んでくださり、今、天国できみのために家をつくっておられることが、よくわかると思うんだ。とってもすばらしいよ！

神さまは、やさしいおじいちゃんのようなお方だと思ってみてください。そして、聖書——神さまからあなたへの愛の手紙——を楽しんでくださいね。

†たしかめてみよう！†

- ◇ 聖書は英語で「バイブル」といいますが、この「バイブル」という言葉は、「本」を意味するギリシア語の「ビブリア」から生まれました。
- ◇ 聖書は1600年以上もかかり、いろいろな人によって書かれました。
- ◇ 聖書は66冊の本からできていて、2つの部分（旧約聖書と新約聖書）に分かれています。
- ◇ 旧約聖書は39冊の本からできていて、ヘブライ語で書かれました。これには、律法、歴史、知恵の言葉、詩、大預言書、小預言書などが入っています。
- ◇ 新約聖書は27冊の本からできていて、ギリシア語で書かれました。これには、福音書、教会の歴史、使徒パウロの手紙、そのほかの人々の手紙、預言書などが入っています。

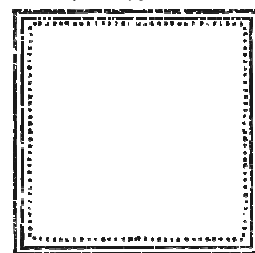
†考えてみよう！†

- ◇ 学校でいやな友だちとつきあわなければならないとしたら、聖書はどんな助けになりますか？ そのような中で友だちをつくろうとするときには、どんな助けになるのでしょうか？ そのような人たちとなかよくするのは、簡単ですか？ このようなとき、あなたは、どうしたらよいと思いますか？
- ◇ 神さまが罪人を愛されたのと同じように、なかよくするのがむずかしい人たちを愛するには、どのような聖句が役に立つのでしょうか。いくつか探してみましよう。

†やってみよう！†

- 紙とエンピツを持って、家の中の静かなところへ行き、あなたの好きな人に手紙を書いてください。その人に、あなたの1日のできごと、学校で勉強したこと、友だちと遊んでいたときに知ったことなどを伝えましよう。楽しかったこと、はげまされたことなども、つけくわえましよう。ほら、あなたにも愛の手紙が書けましたね！

年 月 日



修了スタンプ欄

第2章

聖書の言葉：

「主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にあるように。」
(コリントの信徒への手紙2・13章13節)

父と子と聖霊からなる一人の神さま

「ねえ、お母さん、三位一体ってどういうこと？ 父なる神さま、子なる神さま、聖霊なる神さまで1人の神さまって、どういうことなの？」わたしは、教会から家に帰ってくると、お母さんにたずねました。「牧師先生がね、わたしたちは、父なる神さま、子なる神さま、聖霊なる神さまを礼拝するんですよって言われたの。でも、神さまはお1人だけ、とも言われたわ。そんなことってあるの？」

「そうねえ……、三位一体を理かいるのは、大人でも難しいのだけれど……。」

お母さんは、冷蔵庫のドアを開いて、たまごを1つ取り出しました。「これは何？」と、お母さんは聞きました。「何って、たまごでしょう？」と、わたしは答えます。

するとお母さんは、「そのとおりね、でもこの1つのたまごは、実は3つの部分でできているの」と言いました。わたしは理科でたまごについて勉強していたので、答えがわかりました。「外側の『から』、内側の『黄身』、それに『らん白』というすきとおった白身ね。そうでしょう？」「そうよ。でも、たまごを見て、から・黄身・らん白です、とは答えなかったわね。」「うん。たまごは、やっぱりたまごだもん。」

わたしたち人間には、父と子と聖霊の神さまというと、3人の神さまのように思えてしましますが、実は1人の神さまです。このような不思議なお姿は、神さましか、持っておられないので、わたしたちにはすべてを理かいることができません。

3本の毛糸をあんてヒモをつくったら、どうなるでしょうか。3色がまじりあって、1本のヒモになります。わたしたちを愛し、罪をゆるしてくださる父なる神さま。この世界をつくり、わたしたちをすくうために十字架で死なれた子なる神さま。そして、わたしたちがガッカリしたときになぐさめ、よいことと悪いことの区別を教え、しあわせで健康に生きられるように助けてくださる聖霊の神さま。父と子と聖霊からなる神さまはぴったり結びついておられ、1人の完全な神さまであられるのです。

†たしかめてみよう！†

- ◇ 三位一体の神さまは、父・子・聖霊によって形づくられています。
- ◇ 父・子・聖霊の神さまは、おたがいに愛しあっておられます。そして、特別な結びつきを持っておられます。⇒ヨハネ 1・4:8
- ◇ 父・子・聖霊の神さまは、いっしょに働かれます。父なる神さまは子なるイエスさまをあたえ、イエスさまはご自身をあたえ、聖霊はイエスさまを誕生させられました。⇒ヨハネ 3:16、マタイ 1:18、20
- ◇ 父・子・聖霊の神さまは、「この世をすくう」という1つの目的のために、ぴったりと結びついておられます。⇒ヨハネ 3:16、17

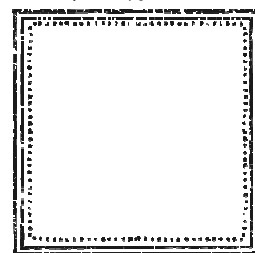
†考えてみよう！†

- ◇ お1人ではあるけれど、父・子・聖霊の神さまがいらっしゃるのならば、どの神さまにでも助けを求めることができるのでしょうか？ それとも、役割がはっきり分かれているのでしょうか？
- ◇ 父なる神さま、子なる神さま、聖霊なる神さまは、この世界がつくられたときにおられましたか？ このことがわかる聖句を、聖書の中から、いくつかさがしてみてください。
- ◇ イエスさまが十字架の上で、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」（マタイ 27:46）とさげばれたとき、神さまとイエスさまとの関係について、どんなことがわかりますか？
- ◇ コリントの信徒への手紙 2・13章13節にある、「パウロの祝福のいのり」を読んでください。このしめくくりのいのりの中で、イエス・キリストが、一番先に出てくるのは、なぜだと思いますか？

†やってみよう！†

- 3つの部分からできているものの絵をかいてみましょう。
例：本体・モニター・キーボードからできているコンピューター
船体・かじ・モーターからできているボート
胴体・前のつばさ・後ろのつばさからできている飛行機
- 赤、黄、青の毛糸、またはより糸で、いのりの組ひもをつくってください。できたら、自分の部屋にかざります。それを見るたびに、神さまの大きな愛に感謝しましょう。

年 月 日



修了スタンプ欄

第3章

聖書の言葉：

「お前の主なる神はお前のただ中におられ……／
愛によってお前を新たにし／お前のゆえに喜びの
歌をもって楽しまれる。」

(ゼファニヤ書3章17節)

すばらしいお父さん
— 神さまは永遠のお父さま —

毎年、夏の夕方、お父さんが仕事から帰ると、ぼくたちは、そう眼鏡を持って、近くの森へ行きます。何が見えると思いますか？ 鳥、花、魚……。自然の中へ出かけて、においをかぎ、音を聞き、いろいろな色を見るのは、本当に楽しいです。

ぼくは、お父さんがぼくを愛してくれていることを知っています。ぼくといっしょに時間をすごして、毎日の生活でたいせつなことを教えてくれたり、ぼくの話の聞いてくれたりするからです。ぼくはお父さんといると安心できます。ときどき、ぼくたちはおどけて歌を歌ったり、じょうだんを言いあったりします。そして大笑いするので、動物たちがにげてしまうほどです。

友だちの中には、「うちのお父さんはいっしょに遊んでくれないし、散歩につれていってもくれない」とか、「お父さんとは、はなれて暮らしているんだ」と言う子もいます。そして、みんな悲しそうな顔になるのです。そんなとき、ぼくはこう言います。「きみにも、たいせつにしてくれて、散歩につれていってくれるお父さんがいるよ。それは神さまというお方で、きみの友だちになりたいと思っておられるんだ。」

そうなんです。ぼくは神さまのことを、天のお父さまだと思っています。神さまは、おいのりをすればすぐに会えて、ぼくの話すことをすべて聞いていてくださいます。だれでも、やさしい神さまに、天のお父さまになっていただくことができます。いつも、神さまがきみのすぐ横におられると思いながら、散歩してみてください。

エリヤがたった1人でアハブ王からにげていたとき、天のお父さまである神さまが、助けてくださったので、かれは感謝しました。神さまはエリヤに話しかけ、カラスに命じて、毎朝毎晩、パンと肉をかれのところまで運んでくださいました。水は、川から飲みました。でもしばらくすると、その川の水もなくなってしまいました。雨がこの地方に降らなかったからです。ところが、「また主の言葉がエリヤに臨んだ。『立てシドンのサレプタに行き、そこに住め。わたしは一人のやもめに命じて、そこであなたを養わせる。』」(列王記上17:8、9)

神さまは、わたしたちのすばらしい天のお父さまなのです！

†たしかめてみよう！†

- ◇ 神さまは、聖です。これは、「神さまは完全である」という意味です。悪いことを決してなさいません。神さまには、罪がありません。
⇒レビ記 19:3
- ◇ 神さまは、愛です。人間が幸せであることをお望みにになります。そして、ひとり子であるイエスさまさえも、わたしたちにあたえてくださいました。そのイエスさまは、わたしたちの罪のために十字架にかかられました。⇒ヨハネ 3:16
- ◇ 神さまは、永遠です。始めも終わりもありません。⇒詩編 90:2
- ◇ 神さまは、決して変わりません。聖書の時代も、今も、世界の終わりにも、神さまはいつも同じです。⇒マラキ 3:6
- ◇ 神さまは、いつもみんなのそばにおられます。また、同時にたくさん場所にあられることができます。ですから、どんな人であっても、神さまからかくれることはできません。⇒エレミヤ 23:24
- ◇ 神さまは、忠実です。神さまは、わたしたちにたくさんの約束をされましたが、すべて守ってこられました。⇒コリント 1:1:9
→次の聖句の中から、神さまの約束を見つけてみましょう
(詩編 91:14、ヨハネ 14:2、ローマ 8:28、フィリピ 4:19、ヨハネ 1:1:9)
- ◇ 神さまは、いつも正しく、公平なお方です。⇒申命記 32:4
- ◇ 神さまは、あわれみ深いお方です。あなたが神さまに求めるならば、その罪を心からゆるしてくださいませ。⇒出エジプト 34:6、7
- ◇ 神さまは、わたしたちの創造者です。わたしたちのために、世界をつくられました。すべてが愛の神さまからのおくりものです。世界は、ぐう然にできたものではありません。⇒創世記 1、2章

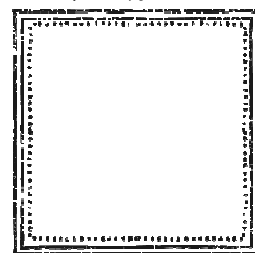
†考えてみよう！†

- ◇ 神さまが、あなたにとって、やさしいお父さんのように思えた体験を2つ話してください。
- ◇ 神さまが、あなたをととも愛しておられるのなら、どのようにして、このよいニュースを学校のお友だちやご近所の方に伝えることができると思いますか？

†やってみよう！†

- 天のお父さまと手をつなぎ、美しい自然の中を散歩している絵をかきましょう。
- 愛の父なる神さまに、短い手紙を書き、家族や友だちの前で発表しましょう。

年 月 日



修了スタンプ欄

『教会指針 2010』（第 14 章「信仰の大要」 3. 父なる神）と対応

第4章

聖書の言葉：

「マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。」(マタイによる福音書1章21節)

わたしを助けてくださるお方
—子なる神さま—

大きなサイレンが聞こえました。それから大きな車が、赤いライトをピカピカ光らせながら、家の前の道路を走ってきました。「きゃあっ！」わたしは、おどろいて飛び起きると両親の部屋にかけこみました。「どうして外がこんなに明るい？」

わたしたち家族は急いで一階に行き、庭にとびだしました。おそろしくて息が止まりそうになりました。となりの家が火事だったのです。まどの内側では、ものすごいほのおがゆらめき、ガラスがわれたげんかんのドアからは、黒いけむりがもうもうと立ちのぼっています。

「えりちゃん！ えりちゃんはどこ！」と、わたしはさげびました。えりちゃんは、わたしの友だちです。えりちゃんが火の中にいる、と思ったとたん、わたしのむねはギュッとなり、手がふるえだしました。「外に出てきて！ 早く！ えりちゃん！」

とつ然、げんかんのドアが開き、1人の消防士さんが、うでにだれかをかかえて、あついほのおの中から飛び出してきました。近くに立っていたえりちゃんのお母さんとお父さんは、かけよって、泣きはじめました。2人は泣きじゃくりながら、「ありがとうございます！ ありがとうございます！」と、何度もくり返しました。そうです。消防士さんが、もえている家に飛びこんで、友だちを助けてくれたのです！

イエスさまのお話を知っていますか。イエスさまは、わたしたちを罪からすくうために、マリアの赤ちゃんとして、この世に来られました。すごいよね！ 天の王さまが、わたしたちのために、赤ちゃんとしてこの世に来られたんだもん。わたしはあの火事の夜にはじめて、イエスさまのなされたことがわかりました。イエスさまは、安全でこちよい天の家をはなれ、悪がもえさかるこの世界へ来てくださったのです。イエスさまは地上で3年間よいことをしました。病人をなおし、神さまについて教えてくださいましたのに、はんざい者のようにあつかわれたのです。そして、わたしたちのために十字架で死なれました。

そういうわけで、今のわたしは、消防士さんを見るたびに、イエスさまのことを思い出し、どのようにわたしを罪からすくってくださったのかを考えるのです。

†たしかめてみよう！†

- ◇ イエスさまは、本当の神さまで、聖なるお方です。
- ◇ イエスさまのお名前なまえの1つは、インマヌエル。その意味は、「神は我々と共にわれわれともおられる」です。⇒マタイ 1:23
- ◇ イエスさまは人間にんげんとなり、わたしたちといっしょにすごされました。⇒ヨハネ 1:14
- ◇ イエスさまは、本当の人間にんげんです。イエスさまは「たくましく育ち、知恵ちえに満ち、神の恵みめぐみに包まれ」ておられました。⇒ルカ 2:40、52
- ◇ 人間にんげんと同じように、イエスさまもおなかがすき、のどがかわき、つかれ、ゆうわくにあわれました。⇒マタイ 4:2、ヨハネ 4:6、19:28
- ◇ 人々ひとびとのために働かれたとき、イエスさまも、心配しんぱいや不正ふせいに対するいかり、悲しみかなしみなどを感じられました。⇒マタイ 9:36、マルコ 3:5

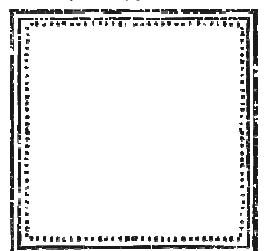
†考えてみよう！†

- ◇ 十字架じゅうじかで死ぬこと以外いがいに、イエスさまがわたしたちを罪つみからすくってくださる方法ほうほうがあったでしょうか？
- ◇ 創世記 2 章 15～17 節と 3 章 を読んでください。どのように、罪つみが今のわたしたちを苦しめているか、話しあってください。
- ◇ イエスさまが、あれ野のでサタンのゆうわくにあわれたとき、どのようにしてこの戦たたかいに勝利しょうりされましたか？ あなたが毎日の生活まいにちのせいかつの中でゆうわくと戦たたかうとき、イエスさまの方法ほうほうを使つかえらしたら、どのように使うことができるでしょうか？
- ◇ じっさいに起こる数百年前おのすうひやくねんまえから、イエスさまの誕生たんじょうを預言よげんしていた聖句せいこくを2つさがしてください。聖書語句辞典せいしょごくじてん（コンコルダンス）を使つかってみましょう

†やってみよう！†

- 十字架じゅうじかとイエスさまの絵えをかき、あいているところに「神さまはわたしを愛あいしています」という文ぶんをかきましょう。部屋へやにかざって、それを見るたびに、神さまの愛あいを思い出おもしましょう。

年 月 日



修了スタンプ欄

第5章

聖書の言葉：

「しかし、^{べんごしゃ}弁護士、^{ちち}すなわち、父がわたしの名によつてお遣わしになる^{せいれい}聖霊が、あなたがたにすべてのことを教え、わたしが話したことをことごとく思い起こさせてくださる。」

(ヨハネによる福音書14章26節)

大好きなカウンセラー——聖霊なる神さま——

「ああもう！ こんななわ結びも、ちゃんとできないなんて！」ぼくはイライラして、なわをほうり投げました。

「どうしたんだい。そんなにすぐ、あきらめて投げ出しちゃいけないよ」と、パスファインダー・クラブのカウンセラーがやって来て、ぼくをなぐさめてくれました。

「ぼくは、ダメなやつなんだ」と、ガッカリした声で言うと、「そんなことないよ。新しいことを覚えるのは、だれだってはじめはむずかしいんだ。何年か前、水泳の課題をやっていたとき、ぼくもちょうどきみと同じように感じたよ」と、カウンセラーは、一生けんめいに、ぼくをはげましてくれました。そして、「ねえ、なわ手品をやるか？」と楽しそうにたずねてきました。

カウンセラーとぼくは、すぐに友だちになりました。こまったときはいつも、かれのところに行きました。かれは、ぼくをはげまし、力づける言葉を持っているのです。そして、ぼくがリーダーになれるように、一生けんめいに訓練してくれました。ぼくの人生に、すばらしいお手本を見せてくれたのです。

このことはぼくに、神さまが天からあたえてくださるもう1人のすばらしいカウンセラーを思い出させてくれます。それは聖霊です。ある日、お父さんが、「聖霊の神さまは、父なる神さまと子なる神さまのそばで働いて、わたしたちがよりよい生き方をできるように助けてくださるんだよ」と話してくれました。聖霊は、どんな問題でも助けてくださいます。ぼくたちが悲しむとき、なぐさめてくださいます。こわがるとき、神さまがそばにおられるので何もおそれなくていい、と思い出させてくださいます。まちがいをおかしたとき、聖霊は小さな声となり、ぼくたちの心に語りかけ、そのまちがいを教えます。また、ぼくたちが神さまにしたがう決心をしたときには、うれしい気持ちにさせてくださいます。聖霊は、もっと良くするためにはどうしたらいいのか、みちびいてくださるのです。そして、ぼくたちに、特別な力や能力をあたえて、ぼくたちが教会のために働けるようにしてくださいます。

聖霊は、ちょうどぼくのパスファインダー・クラブのカウンセラーのように、どんなことでもすぐに助けることができになるのです。

†たしかめてみよう！†

- ◇ 聖書に、聖霊は人間らしさを持っている神さまであって、エネルギーのようなただの力ではない、と書いてあります。
- ◇ 聖霊は、本当の神さまです。聖霊は「命をもたらす霊」、また「真理の霊」です。⇒ローマ 8:2、ヨハネ 16:13
- ◇ 聖霊は、わたしたちの友だち、助け主です。聖霊は、わたしたちに多くのことを教え、何が正しいかを教えてくださいます。
⇒ヨハネ 14:16、17、26
- ◇ 聖霊はわたしたちを教え、罪がわかるように助け、教会の働きへとみちびき、わたしたちをきよめてくださいます。
⇒ルカ 12:12、ヨハネ 16:8、使徒言行録 13:2、ペトロ 1:1:2
- ◇ イエスさまは、「人が犯す罪や冒瀆※¹は、どんなものでも赦されるが、“霊”に対する冒瀆は赦されない」と、強く言われました。
⇒マタイ 12:31

※¹冒瀆：悪く言うこと、相手をたいせつにしないこと。

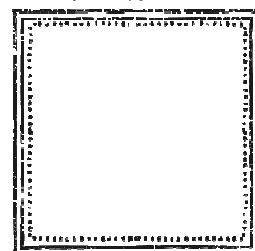
†考えてみよう！†

- ◇ 使徒言行録 2 章を読んでください。五旬祭で、聖霊が弟子たちにおあたえになったのは、どんな力でしたか？ 今でも、この力を受けることができますか？
- ◇ タバコやお酒をやめようとする人を、聖霊はどのように助けることが、おできになるとおもいますか？
- ◇ 教会の礼拝や集会などで、イエスさまを特別な友だちとして受け入れるように、あなたの心が動かされたなら、それは聖霊の働きだと思えますか？

†やってみよう！†

- 「悪いことをしちゃったなあ」と感じたり、「いじわるをやめて、もっと良いことをしなさい」という小さな声が聞こえたりしたことはありませんか？ それは、聖霊の働きかけです。そのようなできごとをいくつか紙に書き出し、友だちに話してみましよう。

年 月 日



修了スタンプ欄



第6章

しずこおばさんの庭

— 創造 —

聖書の言葉：

「初めに、神は天地を創造された。」

(創世記1章1節)

しずこおばさんの庭は、まるで植物園のようです。おばさんは、本当に自然が大好きで、大きな庭には、いろとりどりの花だんや、バラ園、キラキラ光る小さな池に続く小道などがあります。小鳥が木々のあいだで歌い、ちょうが花のまわりを飛んでいます。おばさんの庭がみんなに知れわたったとしたら、すぐにたくさんの人が見物にやって来ることでしょう！

わたしが帰ろうとすると、「これは神さまからのおくりものよ」と言って、いつも両手いっぱいの花をくれます。

わたしたちの教会の牧師先生も、地球についておばさんと同じように言われました。「創造主である神さまは、アダムとエバへのおくりものとして、まずこの世界をつくり、それから2人のための庭もつくられました」と、お話しされたのです。その庭は、しずこおばさんのすばらしいお庭よりも、さらにすばらしいものだったことでしょう。

ある人たちは、世界とその中のすべて——あなたやぼく、動物、植物、うちゅうなど——は、「ぐう然にできたのだ」と、言いほります。すべてのものは、たまたま生まれ、長い時間をかけてゆっくり進化してきたのだ、というのです。

わたしは、しずこおばさんや教会の牧師先生のほうが正しいと思います。なぜなら、聖書には、神さまが6日間ですべてをおつくりになったと、書かれているからです。神さまがただひとこと言われると、バラ、星、馬などが、パッとできました。それから、土のちりて人をつくり、鼻に命の息をふきこまれました。わたしは、自分がぐう然にできたなんて、思いたくありません。おばさんの庭のように、愛の神さまからのおくりものだと思っています。

創世記には、とてもはっきり書いてあります。神さまは6日間ですべてを創造し、7日目に休まれました。そして神さまは、海、山、木、動物、アダムとエバなどをつくり終えられると、すべてのものを見わたして、「これはたいへん良い！」と満足そうに言われたのです。

†たしかめてみよう！†

- ◇ 創世記1、2章には、神さまが天と地を創造された、と書かれています。はじめ、地はかたちがなく、何もなく、まっ暗でした。
- ◇ 神さまが言葉を発せられると、天地とその中のすべてのものが生まれ出しました。⇒詩編33:6
- ◇ 神さまは、6日間で天地を創造し、7日目に休まれました。
⇒創世記1章
- ◇ 聖書の創造の1日は、じっさいの24時間です。創世記1章で「日」とやくされているヘブライ語は、「ヨム」です。ヨムのあとに1や2などの数がつくと、じっさいの1日24時間を意味します。
⇒創世記7:11、出エジプト16:1
- ◇ 神さまはわたしたちを愛しておられるので、わたしたちをつくられました。神さまはわたしたちといっしょに、この世界を楽しみたいと願っておられます。⇒ヨハネ1:4:8
- ◇ 世界の始まりは、神さまが注意深く計画を立てるお方であることをあらわしています。神さまはアダムとエバのために、エデンの園をつくられました。神さまは人間をつくり、人間が神さまと楽しく過ごせるようになさいました。

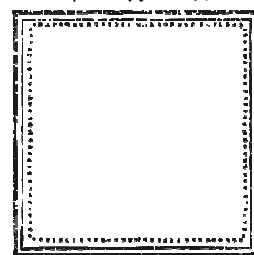
†考えてみよう！†

- ◇ 聖書の世界の始まりは、たまたま世界ができたと思えるのでしょうか？ この世界をつくられた神さまがおられることをあらわすものが、まわりに何かありますか？
- ◇ 週の7日目、安息日に休むことは、なぜたいせつなのでしょうか？
代わりに、日曜日や月曜日に休むことはできないのでしょうか？

†やってみよう！†

- お天気のよい日に家族で、キャンプをしてみましよう。友だちもよんで、神さまが人間へのおくりものとしてこの世界をつくられたことを、話してみましよう。
- 神さまが、わたしたちの健康や、しあわせのために用意して下さった自然を、どのように守り、節約して使うかについての本をさがして読んでみましよう。
- 望遠鏡をかりて、友だちといっしょに星を観察してください。神さまのすばらしさについて話し、感謝しましよう。

年 月 日



修了スタンプ欄

第7章

聖書の言葉：

「闇もあなたに比べれば闇とは言えない。夜も昼も共に光を放ち／闇も、光も、変わるところがない。あなたは、わたしの内臓を造り／母の胎内にわたしを組み立ててくださった。」

(詩編139編12、13節)

光が消えたとき

—人間の性質—

ある夜のこと、家の明かりが急に消えてしまいました。月の光もない夜だったので、まっ暗になってしまったのです。わたしは、かいちゅう電とうを見つけると、お母さんか、お父さんをさがしにいきました。いくじなだとは思われたくないのですが、不安になって、お母さんかお父さんにそばにいてもらいたかったのです。

わたしが台所に入ると、「何をしているんだい？」という声がありました。

「お父さん！？ ああ、おどろいた！」「ごめんごめん。かいちゅう電とうをさがしていたんだ。あつ、おまえは見つけたんだね。それ、ちょっとかしてくれないか？ 地下室のヒューズを調べたいんだ。」

お父さんはそう言うと、たった1つの明かりを手に取り、わたしを残して下の階へ行ってしまいました。

少しきんちょうしましたが、台所に立って、お父さんを待っていると、ふいに、礼拝のときに聞いたお話を思い出しました。それは、罪の暗やみの中にいるご自分の子どもたちを、神さまはいつもさがしておられる、というお話です。わたしたちはみんな、神さまから永遠にはなれるという罪をおかしてしまいましたが、神さまはそれでもわたしたち子どもを愛し、罪がゆるされる方法を用意してくださいました。神さまは、明かりをくださったのです！ それは、かいちゅう電とうよりも、もっとすごい明かりなんです！

光線がかべにゆらゆらうつって、お父さんがもどってきました。「ヒューズじゃなかったよ。今夜はずーっとまっ暗だな」と、お父さんが言いました。

わたしは、「平気よ。神さまは、わたしたちがどこにいるかを、ごぞんじだもの」と、返事をしました。お父さんはあくびをして、わたしがなぜそう言ったかもわからずに、うなずきました。でも、わたしはわかっています。たとえ、わたしが罪の中にまよっても、わたしをつくり、愛してくださる天のお父さまは、いつでも、どんなに暗い夜でも、わたしを見つけてくださるのです。

†たしかめてみよう！†

- ◇ 男と女は、神さまにかたどってつくられ、考えたり、行動したりするための力や選ぶ自由をあたえられました。⇒創世記 1:26、27
- ◇ 男と女は、いっしょに生きるためにつくられました。神さまは、「人が独りでいるのは良くない」と言われました。⇒創世記 2:18
- ◇ 男と女は、この世界の良い管理者になるようにつくられました。神さまはアダムに、人間のしあわせのために地球をたいせつにし、守る責任をあたえられました。⇒創世記 1:26
- ◇ 最初の両親アダムとエバが、神さまにそむいたときから、人間は神さまからはなれていくようになりました。人間は、はずかしさを感じるようになるとともに、神さまにそむいて、罪をおかしたので、死ななければならなくなりました。⇒創世記 3章
- ◇ アダムとエバの子孫であるわたしたちは、弱さを持ち、悪いことを行い、神さまにそむきます。⇒創世記 4:8、23、6:1-5、11-13
- ◇ イエス・キリストは、わたしたちの罪のためにばつを受けられました。わたしたちの代わりに、死んでくださったのです。

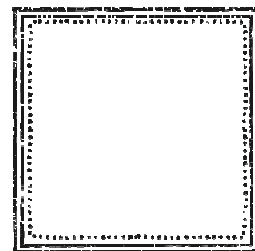
†考えてみよう！†

- ◇ あなたは、すばらしいものとしてつくられました。体のどの部分が、それをあらわしていると思いますか？
- ◇ 赤ちゃんは、罪を持って生まれてくるのですか？ 赤ちゃんはまだ何も知らないのですから、罪はないではありませんか？
- ◇ 神さまにかたどってつくられたわたしたちは、家庭、学校、地いきで、毎日、どのように神さまのすばらしさをあらわすことができると思いますか？


†やってみよう！†

- ふとんをかぶって、まったくの暗やみを体験してください。その場所で、暗やみにつつまれながら、きょうの「聖書の言葉」を大声で言ってみましょう。
- あなたが自分で変えようとしてもできない悪いくせを、1つ書いてみてください。そのくせを変えることができるように助けてください、と聖霊にいのりましょう。

年 月 日



修了スタンプ欄



第8章

聖書の言葉：「立って、真理を帯として腰に締め、正義を胸当てとして着け、平和の福音を告げる準備を履物としなさい。なおその上に、信仰を盾として取りなさい。それによって、悪い者の放つ火の矢をことごとく消すことができるのです。」
(エフェソの信徒への手紙 6 章 14～16節)

大いなる戦い

ぼくのおじさんは、アメリカの軍隊の衛生兵です。戦争でけがをしたり、病気にかかったりした人のお世話をしています。傷ついた兵士をさがしにいったとき、ぼくだんがはれつするのを見たそうです。心配しないように言われますが、心配です。

先週の月曜日、おじさんは、少し変わったことを手紙に書いてきました。ぼくの戦場はどうなっているのか、と聞いてきたのです。「ぼくには戦場なんてないよ」と答えると、「いや、あるよ。きみはサタンと戦争しているんだ」と、返事が返ってきました。ぼくは、その意味をお父さんにたずねてみることにしたのです。

お父さんは言いました。「おじさんの言っているとおりでよ。わたしたちはみんな、戦争中なんだ。神さまは、わたしたちをもっと良くしようと働かれるけれど、サタンは、わたしたちをほろぼそうとする。神さまは、良心に働きかけて、わたしたちを守ろうとされるけれど、サタンは、わたしたちが自分をきずつけるようにゆうわくするんだ。その戦いは、長い間、はげしく続いているんだよ。」

「おじさんみたいに、ぼくも兵士というわけ？」と、ぼくは聞きました。「そうだよ。わたしたちは、自分の戦争を戦っているんだ。おまえはどっちにいると思う？ 神さまは、自由と愛を与えてくださっている。神さまは、人をだましたり、きずつけたりすること、うそをついたり、しつれいなことを言ったり、したりするのをきらわれる。(箴言6:16-19) 神さまは、まず神さまを愛し、神さまにつかえ、まわりの人々を愛し、たいせつにし、親切にしなさい、と言っておられるんだよ。」

またお父さんは、こうも言いました。「はんたいに、サタンはおまえをにくみ、みじめにするのが仕事なんだ。サタンは、タバコやお酒でおまえの体をボロボロにしたがっている。おまえの心をつかみだしている。神さまとサタンは、わたしたちの人生やしょうらいを勝ち取るために戦っている。イエスさまは、わたしたちが罪に勝利できるように聖霊と天使を送って、わたしたちを守り、みちびいてくださるんだ。」

ぼくもおじさんと同じように、神さまの軍隊の兵士で、「大いなる戦い」をサタンと戦っていることがわかりました。ぼくも、戦えることをほこりに思います。

†たしかめてみよう！†

- ◇ サタンは、神さまよりもえらくなりたかったので、3分の1の天使を神さまから引きはなしました。⇒イザヤ 14:12-14
- ◇ サタンは、アダムとエバを罪に引きずりこんだとき、この世に神さまにたいして、さからう心をもたりました。⇒創世記 3章
- ◇ この「大いなる戦い」は、この世に生まれてくるすべての人にえいきょうします。サタンは人に悪いことをさせたり、どうにかして神さまにさからわせようとねらっています。⇒エフェソ 6:12
- ◇ イエスさまの十字架の死をとおして、最後には全うちゅうが神さまの正しさと愛をみとめます。⇒ローマ 3:25、26

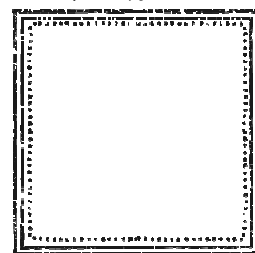
†考えてみよう！†

- ◇ あなたは、学校、家庭、教会などで、サタンの用意したどんなゆうわくと戦えるでしょうか？

†やってみよう！†

- あなたがサタンにゆうわくされたとき、あなたの助けになる聖句を聖書からいくつか、さがしてください。

年 月 日



修了スタンプ欄

第9章

聖書の言葉：「すなわち、合図の号令がかかり、大天使の声が聞こえて、神のラッパが鳴り響くと、主御自身が天から降って来られます。すると、キリストに結ばれて死んだ人たちが、まず最初に復活し、それから、わたしたち生き残っている者が、空中で主と出会うために、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられます。このようにして、わたしたちはいつまでも主と共にいることとなります。」(テサロニケの信徒への手紙1・4章16、17節)

墓石の教え —キリストの一生、死、よみがえり—

わたしには行きたくない場所があります。こわいからではなく、悲しくなるからです。去年、いとこのリサがなくなりました。それからというもの、何をしたらよいか、わたしはわからなくなりました。わたしたちは、本当になかよしだったからです。

おそう式がすんで、まもないある日のこと。牧師先生は、キリストの復活についてのお説教をしておられました。先生は、イエスさまがわたしたちの罪のために、どのように十字架で死なれ、お墓へ入れられたのかを話されました。

それから先生は、わたしがおどろくようなことを言われたんです。イエスさまは、3日目によみがえられたので、そのイエスさまを愛しながら死ぬ人はみんな、いつの日か生き返り、天国へ行って、永遠にイエスさまとともに生きるのです、とおっしゃったのです。生き返るですって！？ リサもイエスさまを愛しながら死んだのです！

リサのお墓へ行くのは、これからもずっと、わたしにとってうれしいことではないでしょう。でも今、そのお墓を見ると、心に希望がわいてくるのがわかります。イエスさまのおいでを待ちながらねむっているリサは、イエスさまが死んでくださったので、もう一度生きることができます。そして、わたしも生きられるのです。

思い出してみてください。ナインのやもめ（夫をなくした女の人）にとって、ひとりむすこをなくしたことが、どれほど悲しいことであったかを。(ルカ7:11-17) かのじよは、はじめに夫をなくし、次にひとりむすこをなくしました。やもめの心は、悲しみでいっぱいになりました。人生に希望があるとは思えなかったでしょう。ところが、町の入り口でお会いしたイエスさまが、ひとりむすこを生き返らせてくださいました。イエスさまは、かのじよの人生にふたたび希望をおあたえになったのです！

使徒パウロやヨハネは、ずっと前に死にましたが、イエスさまがふたたび来られるのを待ちながら、お墓でねむっています。よみがえらせていただくパウロやヨハネにとって、その日は、ワクワクするときになるでしょう。イエスさまにお会いできると思うと、ウキウキしてきますよね！？ 神さまを信じているわたしたちにとって、死は、悲しみやこわいものではないのです。

†たしかめてみよう！†

- ◇ 神さまは、み子イエス・キリストが十字架で死ぬことをおゆるしになりました。イエスさまの身代わりの死によって、わたしたちが罪のために死なずにすむからです。⇒ヨハネ 3:16、ローマ 3:25
- ◇ イエス・キリストの十字架の死によって、この世界は神さまにもどされます。またわたしたちは、自分の罪の責任を問われません。⇒コリント 2:5-19
- ◇ 信仰によって、イエス・キリストを受け入れる人々には、キリストによる永遠の命があたえられます。⇒ヨハネ 3:16-18
- ◇ イエスさまは、悪の力に勝たれました。そして、わたしたちには、永遠の命が約束されています。この2つのことが、イエスさまの復活に、はっきりとあらわされています。⇒コリント 1:15:12-21

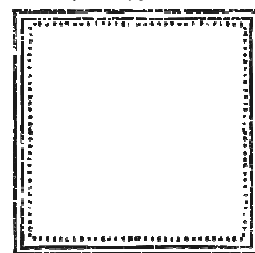
†考えてみよう！†

- ◇ イエスさまを知らずに死ぬ人々は、どうなるのでしょうか？ イエスさまがふたたび来られるとき、かれらは生き返るのでしょうか？
- ◇ 友だちに、「お母さんがわたしより先に死んでしまったら、わたしはどうやって生きていけばいいの？」と聞かれたなら、あなたはなんと行ってなぐさめますか？
- ◇ パウロが、「もしキリストが復活しなかったのなら、わたしたちの宣教は無駄であるし、あなたがたの信仰も無駄です」と言ったのは、どういう意味ですか？ コリントの信徒への手紙 1・15章14、17節をよく読んで、話しあってください。
- ◇ まだイエスさまのことを聞いたことのない友だちに、このよいニュースをどのように伝えることができますか？

†やってみよう！†

- 教会で、最近おそう式をされた家族を調べ、その人たちに手づくりのカードを送ってください。イエスさまが雲に乗ってこられることを伝えるとともに、この章に出てきた聖句を1つ書きうつし、あなたと同じ希望で、元気づけてあげましょう。
- なくなった愛する人に会うことができる日、すばらしい復活の日について、詩を書いてみましょう。

年 月 日



修了スタンプ欄

第10章

聖書の言葉：

「……イエスは、方々を巡り歩いて人々を助け、悪魔に苦しめられている人々をすべていやされたのですが、それは、神が御一緒だったからです。」
(使徒言行録10章 38節)

内側からのいやし
—すくいの体験—

「お母さん、ぼく気分が悪い……。」病気になると、苦い薬を飲まなければならないから、いやだなあ。きのうも、お母さんが、ぼくに薬を飲ませてくれました。

夜、お父さんがぼくのようすを見にきました。「はきけと薬、どっちのほうがいいか、わかんないよ」と、ぼくはお父さんにうちあけました。

お父さんは、「そうか。でも、そこが大事なんだ。病気がなおるっていうのは、体がすっかり良くなることだね。薬はまずいけど、悪いところをなおせれば、気分も良くなるし、学校へ行けて、遊べて、楽しいこともできるようになるだろ。これってなんだか罪と似ているね」と、言いました。

罪と病気が似てるっていうのは、少しわかるなあ。罪は、ぼくをだめにしちゃうから。イエスさまはときどき、ぼくがしたくないことを「しなさい」と言って、ぼくの心に入ってこられる。人をゆるしなさいとか、悪い習かんをやめなさいとか。それって、苦い薬を飲むように感じることもある……。そうか！ イエスさまは、心の中からすっかりなおして、ぼくの生活をもっと良くしてくださるんだ。

人々からぜい金を集めていたザアカイを、覚えていますか？ かれは、これまでしようじきでなかったことを「悪かったなあ」と思いました。そしてイエスさまなら、自分を助けてくださるにちがいない、と考えたのです。ある日、ザアカイは、イエスさまがエリコに来られる、という話を耳にしました。かれは、背が低かったので、イエスさまのお姿を見るために、木にのぼりました。イエスさまはその木に近づいてこられると、上を見上げて声をおかけになりました。「ザアカイよ、いそいでおりてきなさい。あなたの家にとまりたいのだ」と。

ザアカイが、「ゆるしてください」とイエスさまにお願いし、だましてきた人々にお金を返すことを決心すると、イエスさまは言われました。

「今日、救いがこの家を訪れた。」(ルカ 19:9) ザアカイは、どんなにうれしかったことでしょう！ イエスさまがかれをゆるし、救いをあたえたとき、かれは、内側からすっかりいやされた、と感じたのでした。

†たしかめてみよう！†

- ◇ 罪は、神さまの言葉にしたがわないことを選ぶことです。そして、罪の結果は死です。⇒ローマ 6 : 23
- ◇ わたしたちが、イエスさまを心に受け入れると、イエスさまは、わたしたちを罪人から神さまの子どもに変われるよう、助けてくださいます。神さまの子どもは、イエスさまとともに天国で永遠に生きることを望んでいます。⇒ヨハネ 15 : 5
- ◇ 神さまの愛は、すべての人々へのおくりものです。それはお金で買うことも、働いて手に入れることもできません。いただく資格はだれにもありません。けれども、イエスさまが、あなたのために十字架で死んでくださったことを心から信じるならば、あなたは、永遠の命というおくりものをいただけるのです。⇒ローマ 5 : 15-17

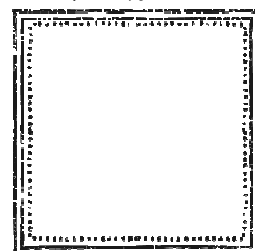
†考えてみよう！†

- ◇ 悪いことをしたときに、心の中で聖霊の声が聞こえることはありませんか。なぜそのように感じるのでしょうか？
- ◇ 罪が死をもたらすのならば、なぜ人々は、「天国でわたしとずっといっしょに生きませんか？」というイエスさまのおさそいを、喜んで受け入れないのでしょうか？

†やってみよう！†

- 病気の友だちや家族がいますか？ 電話をかけるか、手紙を書いてみましょう。その人のぐあいがよくないので心配しています、と伝えましょう。
- 元気のない人が早くなおるように、おいのりしましょう。その人が良くなるまで、いのり続けましょう。そして、神さまの力強いやしに感謝しましょう。

年 月 日



修了スタンプ欄

第 11 章

聖書の言葉：

「キリストは、万物を支配下に置くことさえできる
力によって、わたしたちの卑しい体を、御自分の
栄光ある体と同じ形に変えてくださるのです。」
(フィリピの信徒への手紙 3 章 21 節)

お父さんの笑顔 —キリストにある成長—

親せきのおじさんやおばさんたち、おばあちゃんやおじいちゃんたち、みんなが言います。それに、お店で会ったぜんぜん知らない人たちまで。お父さんとぼくが買っているものをしていて、スッとやって来て、ぼくたちが別のわく星から来たかのように、じっと見つめるのです。そしてその人たちは、たいていぼくを指さして、「むすこさんは、あなたにそっくりですね！」とお父さんに言うのです。そんなとき、お父さんは、「ええ、そうなんですよ。かわいそうに」と、おもしろそうに返します。

ぼくは、本当にお父さんそっくりです。同じかたちの鼻、ほっぺたも同じようにふくれています。かみの毛も同じようなくせつ毛、あごが細いのも同じ。

お父さんに似ているというのは、なんだかおもしろいです。友だちは、大きくなったとき、どんな顔に成長するかわからないけれど、ぼくはもうわかっているから。

お父さんにそっくりなところで、気に入っているところがあります。それは、お父さんが、だれにでも笑顔を見せるところです。お店の人、銀行員さん、おまわりさん、うちの車をなおしてくれる人、ぜったいに笑顔を返してくれない古本屋の女の人にさえも。ぼくの友だちがさわいだり、何かをこわしたりしても、お父さんは笑顔なのです。みんな、すごいと思っています。

ぼくが失敗したり、まちがったりしても、お父さんはこわい顔をしません。それに、ぼくがタバコ、お酒などの悪いものに手を出すようサタンにゆうわくされたときには、ぼくが正しくゆうきを持ってことわれるように、はげまして、助けてくれます。そして、いつもお母さんといっしょに、ぼくのためにいのってくれています。

牧師先生は、イエスさまが心の中に住まれると、ぼくたちがイエスさまのように親切でやさしくなるので、人々にもそれがわかる、と言われました。人々がぼくたちを見るとき、イエスさまを見ることになるのです。すごい！ ぼくは、お父さんのようにもなっていくし、イエスさまのようにもなっていくんです。そう思うと、なんだか笑顔になってしまいます！

†たしかめてみよう！†

◇ わたしたちがイエスさまに助けられて成長するためには、おいのりをしたり、イエスさまと話しあったりする特別な時間をつくる必要があります。楽しいこと、うれしいこと、悲しいこと、こまったことなどをイエスさまに話し、また、イエスさまのように生きる力をあたえてください、と心からいのりましょう。

⇒エフェソ 6:18、テサロニケ 1:5:17

◇ 毎日、聖書を読み、安息日学校ガイドを勉強し、じっくり考えることは、もっとイエスさまのようになるための助けになります。それはまた、悪やゆうわくに勝つ力をあたえてくれます。

⇒詩編 119:112、ヘブライ 4:12、テモテ 2:3:16、17

†考えてみよう！†

◇ 植物が成長するためには、どんなものが必要ですか？ わたしたちがイエスさまに助けられながら成長することと、どのようなところが似ているのでしょうか？

◇ 使徒パウロはイエスさまによって、どのように成長しましたか？ 聖書語句辞典（コンコルダンス）を使って、使徒言行録やパウロの手紙を調べ、イエスさまにあって成長するためにパウロがしたことを見つけてください。

◇ あなたの生活の中にイエスさまを受け入れることは、悪やゆうわくに勝利するために、どのような助けになりますか？ マタイによる福音書 4 章 1～11 節を読んでみましょう。

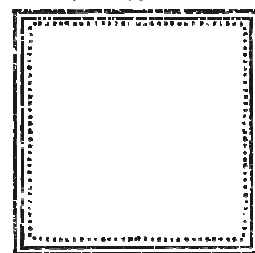
†やってみよう！†

➤ イエスさまの一生についての物語を読んでください。イエスさまがみんなに愛と思いやりをしめされたように、あなたも同じことをしましょう。笑顔をおすれずに！

➤ すてきなノートを用意して、自分の「いのりの日記」にしてください。いのってあげたい人の名前や、いのる内容を書いてみましょう。あなたがいのっていることを、その人に伝えましょう。

➤ 安息日学校ガイドを買ってもらい、毎日学びましょう。

年 月 日



修了スタンプ欄

第12章

聖書の言葉：

「あなたがたは皆、信仰により、キリスト・イエスに結ばれて神の子なのです。……そこではもはや、ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由な身分のものもなく、男も女もありません。」

(ガラテヤの信徒への手紙 3 章 26、28節)

親せきの集まり — 教会 —

わたしの部屋のかべに、1まいの写真がはってありますが、それはとても大事なことを思い出させてくれます。その写真は、親せきがこのあいだ集まったときにとったもので、親せきの人たちといっしょに、わたしも写っています。

わたしは、親せきの集まりが大好きです。丸1年会わなかったいとこたち、おじさんたち、おじいちゃんやおばあちゃんに会いました。お父さんが言うには、みんな、背が高くなったか、年をとったかのどちらかです。

写真の中で、正人おじさんはいつも前の列にいます。背が低いからです。静江おばさんは背が高いので、いつも後ろです。いとこの蘭は、苦い虫をかみつぶしてしまったような顔で写っています（写真をとられるのが苦手らしいの！）。ちひろは、なんだか、ボーイフレンドとだめになったみたいな顔で写っています（これは実は、本当の話！）。20年間、おたがいに、はらを立てている真理おばさんと大吾おじさんもいます（お母さんが言ったの！）。

わたしたちの親せきの中には、医者、トラック運転手、会計士、そして、わたしのように、子どもや学生もいます。わたしたちは、とても大きなグループなのです！

このことは、わたしに何を思い出させるとおもいますか。それは、教会です！ 教会には、いろいろな人がいますよね。背の高い人、低い人、男の人、女の人、おとな、子ども、警察官、店の主人、パイロット……、少しあげただけでもこれだけいます。わたしたちはみんな、すくいぬイエスさまを信じています。わたしたちはみんな、礼拝、まじわりのとき、聖書の勉強、伝道を楽しんでいます。毎週の安息日は、親せきの集まりのようです。

でも、1つだけすばらしいちがひがあります。教会では、みんなのお父さんが同じだということ。どなたかわかりますよね？ そう、わたしたちの信じる神さまです。

わたしたちは、天のお父さまである神さまとつながっている1つの家族なのです。

†たしかめてみよう！†

- ◇ 聖書に出てくる「教会」という言葉は、「よび出された者」を意味するギリシア語の「エクレシア」をやくしたものです。この「エクレシア」は、よび集められた人々の集会なら、どのような集会にも使われる言葉です。
- ◇ 新約聖書の中で、「教会」という言葉は、ほかにも次のようなものに使われています。
 - a) 礼拝のため、決まった場所に集まる信徒たち（コリント 1・11:18、14:19、28）
 - b) ある地方に住んでいる信徒たち（コリント 1・16:1、ガラテヤ 1:2）
 - c) ある人の家に集まる信徒たち（コリント 1・16:19、コロサイ 4:15）
 - d) ある地方にいる信徒の集まり（使徒言行録 9:31）
 - e) 世界中の信徒すべて（マタイ 16:18、コリント 1・10:32、エフェソ 4:11-16）
- ◇ 教会は神さまの家族であり、わたしたちはこの1つの体につながっている子どもです。イエスさまは「体である教会の頭」です。
⇒コロサイ 1:18、エフェソ 5:23
- ◇ 教会では、わたしたちはみんな平等です。わたしたちはたがいに愛しあい、たがいのためにいのります。⇒ヨハネ 13:35、ヤコブ 5:16

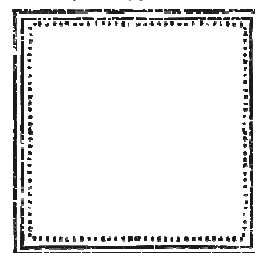
†考えてみよう！†

- ◇ ガラテヤの信徒への手紙 3 章 27～29 節をよく読んでください。イエス・キリストにあっては「ユダヤ人もギリシア人もな（い）」と、パウロは書いていますが、それはどういう意味ですか？
- ◇ 自分とはタイプのちがうすべての人々を、イエスさまのなされたように愛するには、どうすればよいのでしょうか？

†やってみよう！†

- あなたの教会の「系図」をつくってください。大きな木を書き、教会員の写真を集めて、えだにはりつけましょう。あらゆるタイプの人、あらゆる国の人を、もれなく入れてください。
- 外国から来たお友だちがいたら、カードを書き、その人がどんなにすてきか、伝えましょう。

年 月 日



修了スタンプ欄

第13章

聖書の言葉：

「招かれる人は多いが、選ばれる人は少ない。」

(マタイによる福音書22章14節)

ぼくのひみつクラブ

— 残りの人々とその使命 —

学校は、ときどき、とてもいやな場所になることがあります。あ、先生たちは、素晴らしいんです。ただ、学校の何人かの子が、ぼくのなやみの種なんだ。

このあいだ、昼食の時間に、2人の上級生が走ってきて、ぼくのおべんとうを奪ってしまいました。しかも、その日は、ぼくの大好きなフルーツゼリーが入っている日でした。ああ、ぼくの大好物を食べられちゃうなんて！

「もうたくさんだ！」ぼくは走って行って、親友の2人をさがしました。上級生は、この2人もいじめます。そこでぼくたちは、教室で新しいクラブ、「ひみつクラブ」をつくることにしました。その名前は、……うーん、やっぱりひみつ！

ルールはたった1つ。だれが何をしても、ぼくたちはおこらない、ブツブツ言わない、気を落とさない。そして、すぐその場で、いやなことをした人のためにいのるんだ。これまでも大きい子たちにいじわるをされていたので、ぼくたちは実際には、ずっと前からこのクラブを始めていたようなものでした。

その日、クラブのことを話すと、お父さんは笑顔でこう言いました。「それは、『残りのクラブ』ってよぶといい。イエスさまが来られるとき、イエスさまはそういう人たちをさがされる。悪いことをされても、おこらない、ブツブツ言わない、気を落とさない、と決心した人たち。ほかの人のためにいのり、悪いことをされてもゆるす人たちをね。聖書には、そのメンバーは天国に喜んでむかえられる、と書いてあるよ。」

それからお父さんは、おやつにフルーツゼリーを出してくれました。きっとお父さんも、ぼくのクラブに入れると思います。あなたはどうか？

たしかに、おこらないで、おだやかにしているのは、決してやさしいことではありません。でも、そうすることで、ぼくたちは罪に打ち勝つことができるようになります。罪に勝利する人、聖書に忠実な人、聖霊の静かな声にしたがう人は、「残りの人々」となり、神さまの愛を世界に伝えるためにとても熱心に働きます。

残りの人々は、イエスさまがもどられる前に、神さまのために大きなことをなしてあげるのです。

†たしかめてみよう！†

◇ 聖書^{せいしょ}の一番^{ばん}終わりの書^お、ヨハネ^{しよ}の黙示録^{もくしりく}の中で、ヨハネは、りゅうが女^{おんな}と「その子孫^{しそん}の残り^{のこ}の者^{もの}たち」と戦^{たたか}うために出^でていった、と書いています。この「残り^{のこ}の者^{もの}たち」というのが、このお話^{はなし}の主人^{しゅじん}公^{こう}のお父^{とう}さんが言^いっている「残り^{のこ}の人^{ひと}々」のこ^{こと}です。

⇒黙示録 12:17

- ◇ この人^{ひと}たちは、神^{かみ}さまの民^{たみ}で、最後^{さいご}の時代^{じだい}に、苦し^{くる}んだり、なやんだり、戦争^{せんそう}や、はく害^{がい}（おどされたり、傷^{きず}つけられたりすること）にあ^あたりしますが、それでも神^{かみ}さまに忠実^{ちゅうじつ}にしたがうのです。
- ◇ この特別な^{とくべつ}グループは、イエス・キリストが来^こられる直前^{ちよくぜん}の時代^{じだい}には、ヨハネの黙示録^{もくしりく}14章^{しやう}6～12節^{せつ}に書^かかれている三天使^{さんてんし}のメッセー^せージを人^{ひと}々に伝^{つた}える責任^{せきにん}を持^もっています。

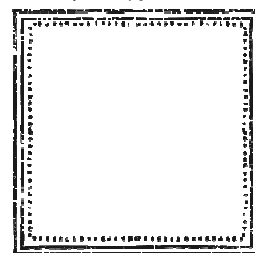
†考えてみよう！†

- ◇ 「残り^{のこ}る」という言葉^{ことば}には、どんな意味^{いみ}があるか、知^しっていますか。辞書^{じしょ}で調^{しら}べてみましょう。
- ◇ ヨハネの黙示録^{もくしりく}12章^{しやう}17節^{せつ}によると、「残り^{のこ}の者^{もの}たち」は、ほかの人^{ひと}たちとくらべて、どんなところ^{ところ}がちがうと書^かかれていますか？

†やってみよう！†

- あなたも学校^{がっこう}でグループをつくってみましょう。「イエスさまを愛^{あい}するものクラブ」という名前^{なまえ}をつけ、みんなをさそってみましょう。毎週^{まいしゅう}のミーティングで、このクラブに入^{はい}入^いるのをことわった人^{ひと}や、あなたをこまらせる人^{ひと}を助^{たす}ける方法^{ほうほう}を考^{かんが}えてください。そして、その人^{ひと}たちのために、いのりましょう。

年 月 日



修了スタンプ欄

第14章

聖書の言葉：

「ついには、わたしたちは皆、神の子に対する信仰
と知識において、一つのものとなり……。」

(エフェソの信徒への手紙 4章 13節)

大きなさわがしい音 —キリストの体における一致—

しきぼうをあげたリーダーが、「用意！」と合図の声をかけました。そして、次の合図と同時に、わたしたちは最初の音を鳴らしました。でも、すぐにみんな気づきました。へんなのです。いつもは、きれいなハーモニーや、力強いメロディーが聞こえてくるのに、そのときの音は、ひどいものでした。みんな、自分がふくべき音を正しくえんそうしていたのです。それなのになぜ、ひどい音になったのでしょうか？

リーダーは手をあげて、わたしたちをとめました。そして、「この新しい曲をどう思う？」とたずねたのです。メンバーは、さっきのひどい音をはらうように頭をふり、「こんなの音楽じゃありません。ただのさわがしい音です！」と答えました。

「そのとおり。みんなはきっと、不思議に思っているだろうね。」ほほえみながら言うバンド・リーダーに、わたしたちはうなずきました。「先週、牧師先生が1つになることについて説教されましたね。人々をすくう聖霊のわざを助けるために、わたしたちは、一致して働かなければならないと。」

「わたしたち、いっしょになって、ちゃんと音を出しました。それでも、うまくいかなかったんです。どうしてかしら」と、わたしは言いました。

するとリーダーは、「それは、わたしがみなさんに、それぞれちがう曲のがくふを配ったからです。同じがくふを一致してえんそうしなければ、どんな音になるか、聞いてもらいたかったのです。さあ、がくふをめくって、わたしがつくった新しい曲を見てください。題は、『わたしの心の聖書』です。」

えんそうを始めると、今度はハーモニーもメロディーも完ぺきでした。なぜでしょうか。それは、同じがくふを見ながら、えんそうしたからです。

同じように、わたしたちがイエス・キリストの体として結びつき、一致するとき、教会にもハーモニーが生まれます。わたしたちは、さまざまながいを持っているかもしれませんが、神さまのそばでは同じなのです。わたしたちはみんな、同じ天のお父さまの子どもだからです。

わたしたちは、すくいの希望を分けあうことで、1つに結びついているのです。

十 たしかめてみよう！ 十

- ◇ 教会は、いろいろな国や、いろいろな言葉の人々がたくさん集まった1つの体のようなものです。わたしたちが、イエスさまにおいて、1つに結ばれているとき、自分中心でないイエスさまの愛を、世の中にあらわしているのです。⇒ヨハネ 17:20-23
- ◇ イエスさまはわたしたちに、心、考え、行動が一致する体験をしてほしい、と望んでおられます。⇒ローマ 15:5、6、コリント 2・13:11
- ◇ キリストにおける1つの体として、わたしたちは、同じ信仰と希望と使命を持っています。それは、すばらしい愛のニュースをすべての人々と分けあうためです。⇒エフェソ 4:4-6
- ◇ イエスさまを信じる人たちが、一致していることは、そのまわりの人々にイエスさまをあかしするために、もっともこうかがあります。

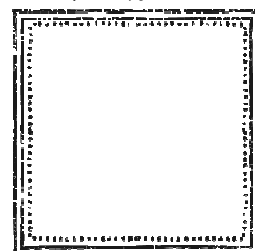
十 考えてみよう！ 十

- ◇ あらゆる国のあらゆる人々を愛する、というとてもできそうにないことを、イエスさまはわたしたちに求めておられるのでしょうか？
- ◇ 自分とはちがうところのあるクラスメートとなかよくするために、あなたはまず何から始めますか？

十 やってみよう！ 十

- 今度の家庭礼拝、またはグループ礼拝で、1人ひとりがちがう歌を同時に歌ってみてください。そのあと、今度はみんなで同じ歌をいっしょに歌いましょう。あなたはどちらが好きですか？
- カードにすてきな絵や言葉をかいて、文化や言葉のちがう3人のお友だちにあげましょう。

年 月 日



修了スタンプ欄

第 15 章

聖書の言葉：

「あなたがたは皆、信仰により、キリスト・イエスに結ばれて神の子なのです。洗礼を受けてキリストに結ばれたあなたがたは皆、キリストを着ているからです。」(ガラテヤの信徒への手紙 3 章 26、27節)

かべにかけるお知らせ —バプテスマ—

お医者さんがわたしの耳に器具をあてていたとき、「先生、あれは何ですか？」と、わたしはたずねてみました。お医者さんは見上げると、診察を続けながら言いました。「あれは、わたしの医師免許状。あれがなかったら、医者の仕事ができないんだよ。」

「なぜ？」

「人の体の働きについて勉強したことを、あの免許状が証明してくれるからだよ。この人には、患者さんが良くなるように助ける資格がありますよ、ってね。」

「わたしにも、こんなすてきな紙があったらいいのになあ。」

お医者さんは、つくえの上の紙に何かを書くと、ほほえんで言いました。

「きみも持っているはずだよ。」「えっ、ほんとですか？」「去年、バプテスマを受けたとき、バプテスマ証明書ももらわなかった？」「はい、もらいました。」

「それぞれ。そのバプテスマ証明書は、きみが神さまや律法やめぐみについて学んだということ。そして、イエスさまを受け入れたということ、証明してくれているんだよ。きみには、人々がすくいぬしについて学ぶのを助ける資格があることや、イエスさまの教会のメンバーであることを、あれはみんなに知らせているわけなんだ。だから、バプテスマ証明書をほこりにしていいんだよ。」

その夜、わたしは、自分のバプテスマ証明書をがくぶちに入れて、部屋のかべにかけました。それを見ると、わたしはクリスチャンなんだ、わたしにはイエスさまのための仕事があるんだ、と思えてくるのです。

イエスさまにしたがった多くの弟子たちは、よみがえられたすくいぬしのよいニュースを伝えるために、どこへでも行きました。そして、何百、何千という人々が、バプテスマを受けたのです。あるとき、フィリポは出かけていき、エチオピアの女王のざいさんをあずかる高い地位の人に会いました。フィリポが聖句を説明してあげると、その人は信じて、すぐに水のある所に馬車を止め、バプテスマを受けました。(使徒言行録8:38) こうしてそのエチオピア人は、大喜びで帰っていったのです。それは、その人にとっても、神さまにとっても、ほんとうにうれしいできごとでした！

†たしかめてみよう！†

- ◇ わたしたちが、「わたしたちの生活せいかつに入はいってください」と、すくいぬしイエスさまにお願いねがするとき、わたしたちの内側うちがわがきよめられます。バプテスマは、その決心けっしんをあらわしたきよめのしるしです。
- ◇ バプテスマを受うけるとき、わたしたちは水みずの中なかにしずめられますが、このバプテスマは、イエスさまの死しとよみがえりのしるしでもあるのです。水みずにしずめられたとき、罪人つみびとであったわたしたちは、ほうむられます。そして、水みずから出でてくるとき、わたしたちは、イエスさまのために新あたらしいきよい命いのちを生いきるように起おこされるのです。
- ◇ 「バプテスマ」のもとの言葉ことばであるギリシア語ごの「バプティゾー」には、「ひたす」「しずめる」「あらう」などの意味いみがあります。
⇒マルコ 1:9、使徒言行録 2:38、41

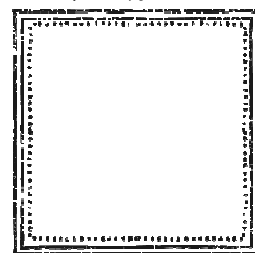
†考えてみよう！†

- ◇ バプテスマのために、どのようなじゅんびをしますか？
- ◇ ほかの人々ひとびともイエスさまを受うけ入れ、バプテスマを受うけるために、あなたになにができるか考かんがえてみましょう。

†やってみよう！†

- もし、あなたがすでにバプテスマを受うけているなら、バプテスマ証しょう明書めいしょをがくぶちに入れ、かべにかざりましょう。
- もし、まだ受うけていないなら、「神かみさまの教会きょうかいの訓練中くんれんちゆうメンバー」という証しょう明書めいしょをつくってみましょう。そして、いつかイエスさまのためにやりとげたいことを、絵えでそこにかき入れてください。

年 月 日



修了スタンプ欄

第16章

聖書の言葉：

「だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。」

(コリントの信徒への手紙1・11章26節)

思い出すとき

— 聖さん式 —

去年、ぼくのおじいちゃんがなくなり、とてもさみしくなりました。おじいちゃんは、よくおもしろいことを言うので、ぼくはいつも笑っていました。ぼくは、おじいちゃんの農場へ行って、いっしょにすごするのが大好きだったんです。

おじいちゃんがなくなってしばらくして、箱が送られてきました。中に入っていたのは、うつくしい時計でした。ねじをまくと、チクタク動きだしました。おじいちゃんが生きていたとき、何年も動いていたように……。おじいちゃんは、ぼくのためにメッセージを書いてくれていて、それが時計のくさりについていました。

この時計を見てわたしを思い出してくれ。大好きなまごへ。おじいちゃんより

時計は、たんすの上のうしろに置いてあります。さみしくなると、ぼくはその時計を取って、チクタクという音を聞くのです。するとぼくは、おじいちゃんのやさしい顔や笑い声を思い出します。そうしていると、さみしさが少しまぎれるのです。

イエスさまも弟子たちに、ご自分のことを思い出してほしい、と願われました。そこで、十字架でなくなる少し前に、弟子たちといっしょに特別の食事をなされたのです。イエスさまは弟子たちに、パンとぶどうジュースをお分けになり、「わたしを思い出するために、このようにパンを食べ、ジュースを飲みなさい」と言われました。パンは、わたしたちのために十字架でくぎづけにされたイエスさまのお体を、ぶどうジュースは、わたしたちのために流されたイエスさまの血をあらわしています。

イエスさまは、ご自分がわたしたちをどんなに愛しておられるか、決してわすれないでほしい、と願っておられます。イエスさまは、わたしたちを愛しておられるという理由だけで、この世へ来られました。十字架で死ぬためです。今、イエスさまは天におられますが、いつかあなたは、その天で永遠にイエスさまといっしょに住めるでしょう。イエスさまはいつでも、あなたのことを思っておられるのです！

イエスさまは願っておられます。あなたのためにイエスさまが何をされたか、どれほどあなたを愛しておられるかを思い出してほしいと。なぜなら、あなたがそれを思い出出すとき、イエスさまがほかの人も深く愛しておられることを、あなたが伝えてくれると、知っておられるからです。

†たしかめてみよう！†

- ◇ イエスさまはわたしたちのために、十字架の上で大きな犠牲をはらわれました。聖さん式は、わたしたちがそのことを思い出すための儀式です。⇒マタイ 26:26-28、コリント 1・11:23-26
- ◇ イエスさまはまた、洗足式もさだめられました。わたしたちは、自分の罪をあらいきよめる必要があること、けんそんに仕えあい、愛によって一致したいと思っていることをあらわすために、おたがいの足をあらうのです。⇒ガラテヤ 5:13、マタイ 20:28
- ◇ イエスさまが、お食べになったパンは、発こう※¹していませんでした。パンをふくらませるパン種（イースト）入りの発こうしたパンは、「罪のしるし」と考えられていたからです。それでは、「きずや汚れのない小羊」であるイエスさまを、あらわすことができません。イエスさまの罪のないお体をあらわすことができたのは、発こうしていないパンだけです。⇒コリント 1・5:7、ペトロ 1・1:19
- ◇ ぶどうの実も、罪のない完全なイエスさまの血をあらわすために、発こうしていないものでなければなりません。ぶどうの実の発こうしていない飲み物とは、ぶどうジュースのことです。

※¹発こう：菌などのすごく小さな生きものが、肉や野菜をアルコールや酸（酢のようなすっぱいもの）に変化させること。酒、みそ、しょうゆなどは、発こうによってつくられます。

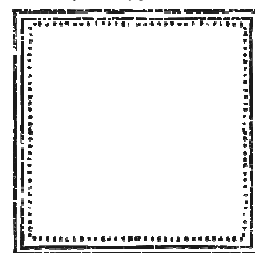
†考えてみよう！†

- ◇ 十字架のイエスさまの死を思い出すことは、あなたの友だちとの関係にどのように役立ちますか？
- ◇ 聖さん式でパンを食べ、ぶどうジュースを飲む前に、あなたはどのようなじゅんぴが必要ですか？

†やってみよう！†

- 「思い出の箱」をつくり、その中に、だれかを思い出させるものを入れてください。お母さんがくれたハンカチ、お父さんがくれた野球のボール、親せきの人くれたおもちゃ、友だちから送られてきた手紙……など。次に、イエスさまを思い出させるものも、何か見つけて入れましょう。箱の中身を見るたびに、おいのりをし、イエスさまと話してください。

年 月 日



修了スタンプ欄

第17章

聖書の言葉：

「何によらず手をつけたことは熱心にするがよい……。」（コヘレトの言葉9章10節）

使わなければだめになる

— 霊のたまものと奉仕 —

「それ、ください！」と、ぼくは最高の笑顔で言いました。そして、びっくりしている店員さんの手に、お金のたばをわたしたのです。

「組み立ては、もうできているんですね？」

「ええ、組み立ては終わっていて、すぐにでも乗れますよ」と、店員さんは、お金を数えながら言いました。

ぼくは、ニッコリうなずきました。ぼくはこの目のために、夏のあいだずっとお手伝いをしてきたのです。しばふをかったり、赤ちゃんのお世話をしたり、倉庫は2回そうじをし、お父さんの車は何回もあらいました。そしてやっと、お金がたまりました。お父さんとぼくは町へ行き、はじめてのマウンテン・バイクを買ったのです。

家に着くと、ぼくは買ったばかりの自転車を車庫に入れ、ぬのでザッとふきました。それは新しい銀貨のように光りながら、すごくかっこよくスタンドによりかかっています。ぼくはすわって、長いあいだじっと見ていました。「何をしているんだい？」と、ぼくを見つけたお父さんがたずねました。

ぼくはためいきをついて、「あんまりきれいだから、乗りたいと思わないんだ。ぼくは1日中、ながめているだけで満足なんだ」と答えました。

するとお父さんは、ぼくのそばにすわってこう言いました。「それは、いい考えじゃないな。使わないと、だめになってしまうかもしれないよ。乗って楽しまなきゃ。自転車はさびついて、いつかはバラバラになっちゃう。自転車でも、シャベルでも、神さまからのたまものでも、持っているものは使うのが、一番いいんだ。朝の礼拝で学んだことを思い出してごらん。神さまはわたしたちに、才能や霊のたまものをくださっているけれど、そういったものは使わなきゃ。そうしないと、なくなってしまうから。なくなったら、さんねんだろ。そう思わないかい？」

ぼくはうなずいて、ピカピカの新しい自転車がまたがりました。「パパ、よーくわかったよ！」ぼくは、そう言うと、自転車で庭を走り回りました。これからぼくは、神さまからいただいた霊のたまものはもちろん、買ったものでも、持っているものなんでも喜んで大事に使うぞ！

†たしかめてみよう！†

◇ 神さまは、人々に奉仕をしたり、教会員を一致させたりするために、特別なたまもの（プレゼント）を、教会のすべての人にあたえておられるということが、聖書に書かれています。

⇒コリント 1・12:1-11、ローマ 12:6-9

◇ 聖霊は、教えること、病気をいやすこと、説教や預言をすること、思いやること、人々をはげますこと、信じること、奉仕すること、など、多くのたまものをくださいます。

◇ 神さまからいただいたたまものが1つでも、2つでも、5つでも、わたしたちはみんな、自分のたまものや才能の管理者です。それを使うことによって、ふやす責任があります。もしわたしたちがたまものを使わず、ふやさなければ、それを失ってしまいます。

⇒マタイ 25:14-30

◇ 霊のたまものや才能が聖霊によってあたえられるのは、教会員が奉仕できるようにするためです。⇒エフェソ 4:11、12

†考えてみよう！†

◇ 霊のたまものと才能とのちがいは、何ですか？

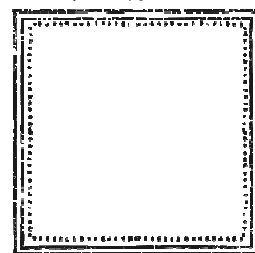
◇ あなたが持っている霊のたまものや才能をいくつか、あげることができますか？ そのたまものを家庭、学校、地いきで、どのように使うことができるか、考えてみてください。

◇ あなたは、霊のたまものを1つも持っていない人がいると思いますか？ なぜそう思うのですか？

†やってみよう！†

➤ あなたは霊のたまもの（歌を歌ったり、楽器をひいたりすること、文章を書くこと、人々をかんげいして喜ばせること、計画を立てること、人前で話をする……など）を持っていますか？ 毎日、少なくとも1つのたまものを使おう、と決心してください。そしてその結果、どんなことが起きたか、日記に書きましょう。あなたに対する神さまのゆたかな愛を感謝しましょう。

年 月 日



修了スタンプ欄

第 18 章

聖書の言葉：

「……あなたたちの神、主に信頼せよ。そうすればあなたたちは確かに生かされる。またその預言者に信頼せよ。そうすれば勝利を得ることができる。」
(歴代誌下20章20節)

わたしのガイド

— 預言のたまもの —

家族でキャンプをしていたある日の午後、わたしは、道にまよってしまいました。道のわきにすわりこんでいると、山田さんという人が助けに来てくれて、「道にまよったんだね。いっしょにキャンプ場へもどろう」と言いました。山田さんは、キャンプ場のスタッフで、道にまよった人を見つけてくれるガイドだったのです。

クリスチャンにとってもガイドはたいせつです。わたしたちの場合、ガイドを預言者とよびます。預言者は、神さまのメッセージを伝えるために選ばれた人です。聖書には、預言者のことが記されています。預言者が書いた聖書の部分を読むことで、神さまについて学ぶことができます。そして、預言者は、今の時代にもいます！

神さまは1800年代に、エレン・ホワイトをご自分のメッセージを伝える人として、お選びになりました。そのとき、エレンはまだ16さい。学校には3年間かよっただけで、教育さえ十分に受けていなかったのです。けれど、エレンは神さまを心から愛し、み言葉にしたがったので、その信仰は強く育ったのでした。神さまはエレンに、いろいろな方法でご自分の働きをまかせられました。かのじよは、たくさんの本や手紙を書き、神さまや聖書について人々がもっとはっきりわかるように助けたのです。

預言者サムエルが、はじめて神さまに話しかけられたとき、かれもまだ子どもでした。そのときサムエルは、およびになったのが、神さまだとわかりませんでした。ですから、神さまのみ声に耳をかたむけることを、はじめに教わらなければならなかったのです。サムエルは後に、神さまのメッセージを伝えるために用いられました。おいのりするときや、聖書を読むとき、神さまは、あなたにも話しかけておられます。

神さまはご自分のメッセンジャーを、年れいではなく、信仰によってお選びになります。あなたも神さまを信じるなら、神さまのメッセンジャーになれるのです。

神さまは、わたしたちをみちびくために、聖書をくださいましたが、その道をしめすために、特別な人たちもおあたえになりました。あなたが、神さまの送られたメッセージに聞きしたがうなら、まちがった道をえらぶことはありません。神さまはまた、あなたが聖書を理かいてできるように、助けてくれる人も送ってくださいます。

さあ、神さまのみ声を聞くじゅんびは、できていますか？

†たしかめてみよう！†

- ◇ 「預言者」は、ヘブライ語の「ナビ」をやくした言葉で、神さまの言葉^{ことば}を伝える人^{ひと}、という意味です。預言者は、神さまに代わって語る人^{かたひと}なのです。
- ◇ 預言者は、自分のために預言^{よげん}しません。「預言は、決して人間の意志^{にんげん いし}に基づいて語^{かた}られたのではなく、人々が聖霊^{せいれい}に導^{みちび}かれて神からの言葉^{ことば}を語^{かた}ったものだからです。」⇒ペトロ 2・1:21

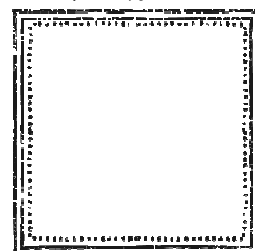
†考えてみよう！†

- ◇ 神さまがあなたに話^{はな}しかけておられると、どうしたらわかりますか？ 詩編^{しへん}50編^{べん}1節^{せつ}、アモス書^{しよ}3章^{しやう}1、7節^{せつ}を読みましょう。
- ◇ エリヤやエリシャのような預言者^{よげんしや}たちで、特によいところは、どんなところだと思^{おも}いますか。いくつかあげてみましょう。

†やってみよう！†

- エレン・ホワイトは、セブンスデー・アドベンチスト教会^{きやうかい}をつくった人^{ひと}たちの1人^{ひとり}です。かのじよは、1844年^{ねん}から、1915年^{ねん}まで、神さまのメッセージをわたしたちの教会^{きやうかい}に伝えました。エレン・ホワイトについて、両親^{りやうしん}や教会^{きやうかい}の先生^{せんせい}に話^{はな}してもらいましょう。
- 教会^{きやうかい}の友^{とも}だちといっしょに、エレン・ホワイトの働き^{はたら}についての短いげき^{みじか}をつくり、えんじてみましょう。天国^{てんごく}への道^{みち}で助^{たす}けてくれるガイド^{かみ}がいることを、神さまに毎日感謝^{まいにちかんしや}しましょう。

年 月 日



修了スタンプ欄

第19章

聖書の言葉：

「心を尽くしてわたしはあなたを尋ね求めます。
あなたの戒めから／迷い出ることのないようにし
てください。」（詩編119編10節）

道路標識

— 神さまの律法 —

ある日、家族で車に乗って町へ出かけたとき、ぼくは道路標識を見て、全部メモしておきました。次のようなものがありました——「止まれ」「徐行」「左折禁止」「速度制限30キロ」「通行禁止」「踏切注意」「進入禁止」「一方通行」「出口3B」「歩行者注意」……。

ぼくはお父さんに聞きました。「ねえ、どうしてこんなにたくさん道路標識があるの？ 反対側の道を運転したり、通学路をものすごい速さで走ったり、坂の向こうが見えないのに前の車を追いついたりするのは、ルールを守らない人だけでしょ？」

するとお父さんは、次のように教えてくれました。「標識は、ルールを守らない人のためにだけあるんじゃないよ。交通ルールを守っているふつうのドライバーでも、気がそれたり、つかれたり、十分に注意していないことがあるからね。だから標識を立てて、どうすればみんなが、ぶじに家につけるか、気づかせてくれているんだ。法律は、それをやぶる人のためだけに存在するんじゃない。守る人が、どうしたら責任をもって運転できるか、教えてくれるものなんだ。ちょうど神さまの律法と同じだね。」

「神さまの律法？」と、ぼくはたずねました。
「そう、十戒のような神さまの律法は、神さまを愛し、神さまにしたがう人々が、正しいこととそうでないことを区別できるように助けてくれる。罪は、ひどいウソやまちがった約束でみんなをまどわそうとする。神さまの律法は、そんなときどうしたらよいかを助けてくれるんだよ。」

今では、車から道路標識を見かけるたびに、ぼくは笑顔になります。旅が終わるまで安全でいられるように助けてくれる標識があつてよかったな、と思うからです。

神さまの十戒は、どれほど神さまがぼくを愛し、どれほどしあわせで健康な日々を送ってほしいと願っておられるのかをあらわしています。ぼくは毎日の生活の中で、そのことに気づきます。

十戒にしたがうのは、「神さまありがとう」と、神さまに言うことなのです。

†たしかめてみよう！†

- ◇ 十戒は、神さまの愛とお気持ちをあらわしています。また、神さまと人々に対して、わたしたちが、どんな行いをしたらよいのかを、教えてください。⇒ローマ7:12、詩編119:151、172
- ◇ 神さまのルールにしたがうと、罪からのほんとうの自由があたえられ、クリスチャンとして成長できます。⇒ヤコブ1:25、詩編119:45

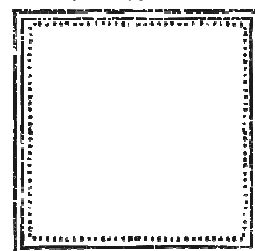
†考えてみよう！†

- ◇ 次のようなとき、十戒はどのようにみちびいてくれるでしょうか？
 1. お母さんに失礼なふるまいをしたり、悪い言葉を使う。
 2. 中学校1年生なのに、「子ども料金」でバスに乗ろうとする。
- ◇ 神さまのルールを守るのは、とてもむずかしいことですか？

†やってみよう！†

- 「神さまのおきて」という標識をいくつかつくり、部屋の中にかざってみましょう。「ぬすんではならない」という標識は、あなたのお金をしまっておく所にかけてください。「あなたの隣人を愛しなさい」という標識は、教科書のそばに置いておくと、学校で友だちに親切にすることを思い出させてくれるでしょう。
- 新聞を読んで、十戒をやぶっているニュースを見つけてください。そのうち2つを選び、その人たちのためにいのりしましょう。

年 月 日



修了スタンプ欄

第20章

聖書の言葉：

「……安息日は、人のために定められた。……だから、人の子は安息日の主でもある。」

(マルコによる福音書2章27、28節)

二人の時間 — 安息日 —

毎週、火曜日の午後、わたしは学校から、お母さんは仕事から帰ってくると、服を着がえ、いっしょに楽しいことをしています。わたしが一番好きなのは、うら庭でサッカーボールをけることです。あとは、公園に行ったり、町へ買い物に出かけたり、毎日の生活や友だちのことなど、たいせつなことについておしゃべりします。お母さんはこれを「二人の時間」とよんでいて、わたしはこの時間が大好きです。どういうところが大好きかというと、お母さんがわたしのためだけにいてくれる、というところなんです。お母さんは電話にも出ないし、弟もまとわりつかないし、じゃまがぜんぜん入りません。ほんとうに、わたしたち二人だけなんです。

先週の火曜日、わたしたちは、教会のお年よりの家へ行って、そうじ機をかけてきました。その前の火曜日には、お店でアイスクリームを買って、木かげにすわって食べました。来週は、家で本を読むつもりです。といっても、お母さんが読んでくれて、わたしは聞くだけです……。それも、わたしの大好きなことです。

二人でいたとき、「これって安息日みたいね」と、お母さんが言いました。わたしはびっくりして、「安息日？」と答えました。おかあさんはこう説明してくれました。「安息日は、神さまとすごす『二人の時間』のようなものだと思うの。わたしたちは神さまを礼拝したり、さんび歌を歌ったり、神さまを喜ばせることをしたりするけど、それを毎週同じ日の、安息日にするじゃない！」

つまり、わたしは「二人の時間」を毎週2回持っていることになります。1回は、火曜日にお母さんと、もう1回は、安息日にイエスさまと……。わたしにとっては、どちらの時間も楽しみでたまりません！

イエスさまは地上におられたとき、神さまを礼拝するために会堂（教会）へ行かれました。イエスさまは、聖書の大きなまきものを読むのがお好きでした。ペトロ、ヤコブ、ヨハネ、アンデレなど、イエスさまのお弟子さんたちも、神さまを礼拝しに会堂へ行きました。使徒パウロは安息日ごとに、教会でたくさんの信徒と会っていました。いっしょに神さまをほめ歌い、イエスさまについてのお話をパウロから聞くのは、ほんとうにすばらしい時間だったことでしょう。

†たしかめてみよう！†

- ◇ 安息日は、週の第7日目（土曜日）で、神さまはこれを「聖なる日」とおよびになります。なぜなら、神さまは6日間でこの世界をつくられたあと、この日に休まれたからです。⇒創世記 2:1-3
- ◇ 神さまは安息日を、神さまとご自分の民とのあいだの「しるし」といわれます。安息日は、わたしたちに対する神さまの愛を土台にした約束だからです。⇒出エジプト記 31:16、申命記 7:7、8
- ◇ 神さまの聖なる安息日は、金曜日の夕方、太陽がしずむときに始まり、土曜日の夕方、太陽がしずむときまで続きます。⇒創世記 1:5

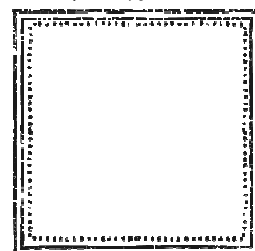
†考えてみよう！†

- ◇ 出エジプト記20章10節の、「だれであれ、いかなる仕事もしてはならない」とは、どういう意味だと思いますか？ まったく何もしないで休んでいなさい、ということでしょうか？
- ◇ 神さまの安息日をたいせつにするために、あなたができることをいくつか考えてみましょう。

†やってみよう！†

- 安息日にイエスさまがなさったことを、リストにしてみましょう。（聖書には、病気をいやされた、お話をされた、聖書を読まれた、人々と食べものを分けあわれた……などと書かれています）
- イエスさまをお手本にして、自分の「安息日プログラム」を計画しましょう。考えをふくらませ、楽しみながらやってみてください。
- 安息日にそなえて金曜日にすべきことを、リストにしてみましょう。金曜日の太陽がしずむまでにすべてのじゅんぴができたなら、どんなふうを感じるでしょう。そのときの気分を文章にしてください。

年 月 日



修了スタンプ欄



第21章

聖書の言葉：

「地とそこに満ちるもの／世界とそこに住むものは、主のもの。」

(詩編24編1節)

美を分けあう

—管理者のつとめ—

ぼくは、この木の枝にすわります。夏には、木かげで休みます。ぼくは、この木が大好きです。この木は、ぼくの木のようなものだから。ぼくが生まれたとき、お父さんは、庭に木を植えました。そして、お母さんに、「この木はいつか、むすこに神さまのたいせつなことを教えてくれるよ」と話したそうです。

あれから何年もたち、今では、その木の枝にすわり、遊べるようになりました。この木は、ぼくのものだけど、神さまのものでした。ぼくに学ばせたかったのは、このことだったのです。ぼくには木を大きくさせることはできません。神さまにしかできないお仕事です。雨や光をくださり、根から葉へ水をゆきわたらせるのは、神さまです。だから、木は神さまとぼく、両方のものなのです。ぼくは木を農薬から守ります。夏には、害虫がすみつかないように、かれ枝を切り落とします。それから、根を守るために、根もとの地面をほったりしないように注意します。神さまのものをお世話するとき、ぼくたちは「よい管理者」なのだとお父さんは言います。神さまがぼくを見守ってくださるように、ぼくも木をたいせつに見守っています。

あるとき、イエスさまは、旅に出かけていく人のお話(マタイ 25:14-28)をなさいました。その人は3人のしもべをよび、「わたしのお金をおまえたちにあずけよう」と言いました。かれは、1人ひとりがどれほど管理できるかを考えたうえで、1人目のしもべに5ふくろのお金、2人目のしもべに2ふくろのお金、そして3人目のしもべに1ふくろのお金をあずけたのです。すると、5ふくろ受け取ったしもべは、すぐにそれを使って仕事をし、さらに5ふくろ分のお金をもうけました。2ふくろ受け取ったしもべは、さらに2ふくろ分のお金をもうけました。けれども、1ふくろ受け取ったしもべは、地面にあなをほって、主人のお金をかくしておいたのです。

主人がもどってくると、「あのお金をどうしたのか？」と、しもべたちに聞きました。1人目と2人目のしもべは、「あのお金を使って、ご主人さまのために、もうけました」と答えました。けれども、3人目のしもべは、「土の中にうめて、何もしてませんでした」と答えたので、主人はそれを取りあげ、よく働いた人たちにあたえました。

神さまは、わたしたちがよい管理者になるよう望んでおられます。

†たしかめてみよう！†

- ◇ 英語では「管理者」のことを、「スチュワード」とか「マネージャー」と言います。その人は、主人からまかされたものをどう使ったらよいか、いろいろ考えます。自分の身のまわりを管理することは、神さまの愛に対するあなたの返事なのです。
- ◇ クリスマスは、神さまからいただくすべてのもの——命、体、時間、才能や能力、持ちもの、奉仕するチャンス、真理の知識など——を、管理者としてたいせつに守ります。

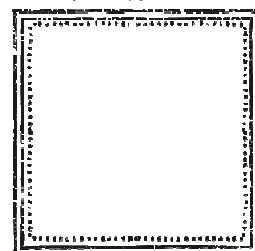
†考えてみよう！†

- ◇ どうすれば、自分の時間をじょうずに使うことができるとおもいますか？ あなたにできることをいくつか書き出してみてください。
- ◇ 神さまはわたしたちに、手に入れたものやお金の十分の一（10パーセント）を返しなさい、と求めておられます。それは多すぎるとおもいますか？

†やってみよう！†

- 庭に花か木を植えましょう。それを育てるために、神さまがどのように助けてくださるかを観察してください。植物や動物を世話する管理者にしていだけることを、神さまに感謝しましょう。
- 「什一」と書いたふくろに、おこづかいの10パーセントを入れ、自分の名前を書いて、礼拝のけん金かごの中に入れてください。どんな気持ちになりましたか？ 文章に書いてみましょう。

年 月 日



修了スタンプ欄

第22章

聖書の言葉：

「……あなたがたの体は、神からいただいた聖霊
が宿ってくださる神殿……です。……だから、自分
の体で神の栄光を現しなさい。」

(コリントの信徒への手紙1・6章19、20節)

ゴミをすてる
—クリスチャンのふるまい—

「よし！ そうじかんりょう！」と、つかれた笑顔で、お父さんが言いました。「わたしたち、よくやったね！」と、わたしも言いました。「だけどお父さん、このゴミの山、どうするの？ 古い箱、こわれたおもちゃ、空きかん、さびついたバスケットゴール。それに、ボロボロ布がつまったゴミぶくろもあるよ。」

お父さんはちょっと考えて、うなずきました。「そうだなあ、教会へ運ぼうか。教会堂の聖さん式のテーブルとオルガンのあいだに置いたら、ぴったりだ。」「えっ、教会！ そんなのできないよ！」「どうして？」「だって、教会ってというのは……神さまの家、神さまの神殿でしょう！」と、わたしはビックリして、言いました。

「つまり、おまえの体が神さまの神殿であるのと同じってことかい？」「うん……そうか、わかった！」と、わたしは赤くなって言いました。「お父さんは、わたしが食べるスナックのことを話しているのね？ わたしの体は神さまの神殿だから、健康に悪い食べものを体に入れちゃいけないってことでしょう？」

お父さんはうなずいて言いました。「クリスチャンは、神さまを知らない人とちがっていなければならないんだよ。わたしたちは、ちがうように食べ、ちがうように考え、ちがうように行動し、ちがうように楽しむのさ。神さまは、教会に住みたいと願っておられるように、わたしたちの心の中にも住みたいと願っておられるんだから。」

わたしはゴミの山を見て、これが教会に山づみされたら、ひどいながめだろうなあ、と思いました。そして、スナックが、体につまっているようすも思いうかべたのです。わたしは、「さあ、ごみすて場に出しちゃおう！」と言いました。

イエスさまは、わたしたちがイエスさまを信じる者らしく、思いやりのある人になってほしい、と願っておられます。ヤッファのドルカスを覚えていますか？ かのじよは、いつもよいことをし、まずしい人たちを助ける、本当のクリスチャンでした。(使徒言行録9:36) ナオミは、およめさんのルツが、イエスさまの信者ではなかったけれど、やさしくしました。その思いやり深いふるまいで、ルツがナオミの神さまを受け入れるように、みちびいたのです。

†たしかめてみよう！†

- ◇ クリスマンであるわたしたちは、イエスさまを信じる者として、
かみ さまのすばらしさをあらわすように かんが かん 感じ、行い、イエス
さまのように生活したいものです。
- ◇ わたしたちの からだ せいいい しんてん 体は聖霊の神殿なので、クリスマンは健康に良い
ことをします。わたしたちは うんどう きゆう 運動、休けい、健康に良い しょくじ 食事など
を必要としますが、タバコをすったり、お酒を飲んだりせず、体
ひつよう 害のあるものには ちか 近づきません。⇒コリント 1・6:19
- ◇ イエスさまを信じる者として成長できるように、わたしたちは じつ
たか おんがく ほん の高い音楽、本、テレビ番組、えい画、遊びなどを選びましょう。
⇒フィリピ 4:8

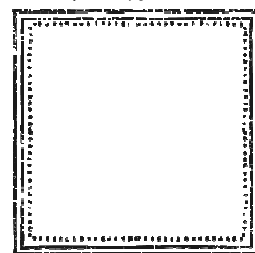
†考えてみよう！†

- ◇ もしイエスさまがあなたの ころろ す 心に住んでおられるとしたら、親切で
ない とも 友だちと、どのようにつきあいますか？
- ◇ きょうかい とも よ 教会の友だちが読んでいる本、聞いている音楽、見ているテレビ番
ぐみ 組やえい画などについて、あなたはどんなアドバイスをしますか？

†やってみよう！†

- くだものをいつも いえ お 家に置いておきましょう。そうすれば、スナック
がしを たく 食べたくなったり、健康によいリンゴ、ミカン、ブドウな
どで、おなかを みたす 満たすことができます。

年 月 日



修了スタンプ欄

第23章

聖書の言葉：

「愛は決して滅びない……。」

(コリントの信徒への手紙1・13章8節)

氷ぶくろの約束 — 結こんと家庭 —

この前、みきちちゃんとおしゃべりをしていたとき、急にぼくを見て、「もしだれかがわたしをいじめようとしたら、止めてくれる？」と聞いてきたのです。「うん、きみを守ってあげる。どんなことがあっても」と、ぼくは約束しました。

ある日の放課後、いじわるな3人の5年生が、ぼくたちのところへ走ってきて、からかいはじめたのです。そして、1人の子が、みきちちゃんをつきとばしたのです。

「やめろよ！」ぼくはさげびました。「じゃまだ！」と、いじめっ子は言いながら、ぼくに向かってきました。友だちと約束していても、こんなとき、約束を守るのは、たいへんだと思いました。でも、約束は約束。ぼくはかくごして、目をとじました。

保健室で、みきちちゃんは、ぼくのはれあがったほおに氷ぶくろをあてながら、言いました。「約束を守ってくれて、ありがとう。あなたが強い人って、よくわかったわ。」
「結こんした人たちは、どんなことがあっても約束を守らなきゃいけないって、牧師先生が言ったんだ。だから、ぼくたち子どももそうすべきだと思って……。」

もしあなたが友だちに約束したら——あるいは、あなたが結こんするときに、相手の人を「愛します」と約束したら——、たとえどんなことがあっても、守るかくごをしなければいけません。たとえ、氷ぶくろが必要なことが起きたとしても、心配いりません。いたみはいつか消えますが、友情はいつまでも消えないのですから。

マリアとヨセフを思い出してください。2人がこれから結こんしようとしていたときに、ヨセフは、マリアが聖霊によって赤ちゃんができたことを知ります。天使がヨセフにあらわれて、マリアはおなかに神のみ子を宿しているのだ、と告げたあとも、かれは約束をかたく守りました。ヨセフはマリアと結こんし、かのじよを愛し、たいせつにし、2人はいっしょにすくいぬしイエスさまを育てたのです。

ヤコブはラケルを愛して、結こんの約束をしました。しかし、そのためにかれは、7年も働かなければなりません。結こん式の日、かれは、ラケルのお父さんにだまされて、姉のレアと結こんさせられたことに気づきます。けれども、ラケルへの愛が強かったので、ヤコブはさらに7年働いたのです。かれはついにラケルと結こんし、かのじよが死ぬまでたいせつにしました。

十 たしかめてみよう！ 十

- ◇ 神さまは、結こんを永遠に続くように定められました。2人は、楽しいときも苦しいときも、たがいに愛しあうことを約束するのです。
- ◇ 結こんは、神さまが聖とされたきよいものです。両親がりこんすることで、子どもがえいきょうを受けることもあります。りこんは、神さまのご計画なさったものではありません。⇒マタイ 19:3-9
- ◇ 結こんをとおして、神さまは子どもをあたえられます。そして、その家庭を祝福してくださいます。⇒詩編 127:3
- ◇ キリストが教会を愛しておられるように、父と母はたがいを愛し、そんけいし合わなければなりません。
- ◇ 両親は、子どもに神さまの愛を教え、子どもが神さまを愛し、したがうように、育てなければなりません。⇒申命記 6:7-9

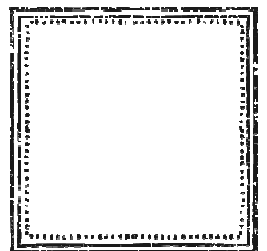
十 考えてみよう！ 十

- ◇ しあわせで愛に満ちた家庭にするために、あなたはどんなことができると思いますか？
- ◇ なぜ神さまは結こんと家庭をつくられたのでしょうか。あなたの考えを文章に書いてみましょう。

十 やってみよう！ 十

- 絵や写真をはったりして、「約束ノート」をつくってください。あなたがだれかと何かを約束するたび、わすれないようこのノートに書いておきます。約束を守ったときには、大きな赤丸をつけます。

年 月 日



修了スタンプ欄

第24章

聖書の言葉：「今や、義の栄冠を受けるばかりです。正しい審判者である主が、かの日にそれをわたしに授けてくださるのです。しかし、わたしだけでなく、主が来られるのをひたすら待ち望む人には、だれにでも授けてくださいます。」

(テモテへの手紙2・4章8節)

石のよつに

— 天の聖所でのキリストの働き —

「お父さん、本当にごめんなさい」と、ぼくは泣きながら言いました。「なんてことだ……。なにも上級生から、この石をまどに投げつけろと言われたからって、そのとおりに投げなくてもよかったんだよ」と、お父さんが言いました。そのとおりでと思いました。「ぼくが悪かったんだ。ごめんなさい……。」

お父さんとそこに立っていて、ぼくの心はいたみました。わたしたちのガラスのお金は自分ではらいます、と約束していました。けれど、ぼくが一番つらかったのは、お父さんの悲しそうな顔を見たことでした。ぼくが、お父さんをガッカリさせたのです。

その夜、おやすみなさいを言い、お父さんの部屋へ行くと、いのっているお父さんの声が聞こえました。「神さま、むすこがまどをわってしまいました。どうぞおゆるしてください。むすこのすることは、すべてわたしに責任があります。よいことと悪いことの区別をしっかりと教えます。むすこが、神さまからゆるされていることがわかるように、お助けください。いのりを聞いてくださり、感謝いたします。アーメン」

去年、聖書の時間に、イエスさまは、ぼくたちのためにいそがしく働いておられる、と習いました。ふたたびもどってこられるとき、天国へいっしょに行く人たちのためです。イエスさまは、ゆるしてほしいと心から願う人をだれでもゆるしてくださる、という聖句を読んでもらいました。お父さんは、これがどういうことかを教えてくれたのです。イエスさまはぼくたちをゆるし、それから、聖霊をとおして教えてくださいます。ちょうど、お父さんがぼくをゆるし、いのってくれたように。

神さまは、イエスさまが天で今なさっておられることをあらわすために、あれ野の幕屋をつくりなさい、とモーセとイスラエルの人々にお命じになりました。あれ野では、悪いことをした人をさばき、罪をゆるすのは、祭司の役目でした。イエスさまはその働きを、天でなさっておられるのです。イエスさまは、わたしたちをゆるし、罪からきよめ、天国へむかえようとしてくださっておられる、天の祭司なのです。

ぼくは部屋に、まどをわたしたちの石を置いてあります。イエスさまが、すべての罪をゆるし、よいことと悪いことの区別を教え、ぼくを天国へ連れていきたい、と願っておられることをわすれないためです。イエスさまは、ぼくを愛してくださっているんだ！

†たしかめてみよう！†

- ◇ 天には神殿があります。そこは、神さまが住まわれる場所です。
⇒黙示録 4:1-4
- ◇ イエスさまは、わたしたちの大祭司であり、天の神殿でわたしたちのために働いておられます。⇒ヘブライ 8:1、2

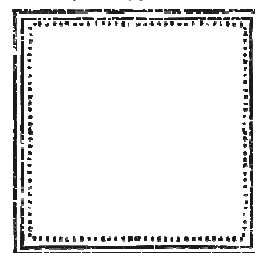
†考えてみよう！†

- ◇ もしわたしがイエスさまに罪を告白するなら、イエスさまはゆるしてくださいます。けれども、告白するのをわすれた罪は、どうなるのでしょうか？ それでも、ゆるしてくださいますか？
- ◇ あなたが悪いことをした人からゆるしてもらったとしたら、どう感じるでしょうか？

†やってみよう！†

- さいばん官が使う「木づち」をつくりましょう。そして、手に取りやすい場所に、置いておいてください。自分の罪をゆるしてください、と神さまにいのり求めたあと、その木づちをポンとたたき、「ゆるされました！」と言ってみましょう。
- 小さいノートを用意して、「いのりの日記」にしてください。毎日、自分がした悪いことを書き、1日の終わりに、すべての罪をゆるしてください、と神さまにいのり求めましょう。赤ペンを使って、そのページにバツを書き、「ゆるされた！」と書いてください。

年 月 日



修了スタンプ欄



第25章

聖書の言葉：

「見よ、その方が雲に乗って来られる。すべての人の目が彼を仰ぎ見る……。」

(ヨハネの黙示録1章7節)

赤い自動車 —キリストの再臨—

おしゃべりしている時間はありません。おじいちゃんとおばあちゃんが、遊びに来るのです。家の中は散らかっています。2人は年に2回しか来られないので、きちんとしておきたいのです。わたしはカーペットにそうじ機をかけ、家具やおもちゃのほこりをはらい、お母さんがシーツをあらうのを手伝いました。

お父さんは、外で草むしりをしています。でも、お兄ちゃんはゲームで遊んでいます。ほんとうは、お皿をあらわなくてはいけないのに、おもしろいことにむちゅうで、自分のするべきことをしていません。

さあ、花びんにお花をいけました。冷蔵庫には、おじいちゃんの大好きなポテトサラダとウモロコシが入っていて、テーブルの上にはカステラもあります。おばあちゃんはくだものが好きなので、テーブルの上の大きなお皿の中には、つやつやしたりんごが置かれています。わたしは、新しいワンピースも買いました。これを着るのが、とっても楽しみ！

おじいちゃん、おばあちゃんが遊びに来るとき、わたしたちは一生けんめいにじゅんぴをします。楽しい計画もたてるんです。川ぞいを散歩したり、近くの博物館を見学したり……。わたしたちは、2人の赤い自動車をワクワクしながら待ちます。

お父さんが言うには、2人の赤い自動車を待つのは、イエスさまが来られるのを待つのに似ているそうです。どちらの場合も、たくさんの用意が必要です。イエスさまは、やがて地上にもどってこられ、イエスさまを愛し、イエスさまにしたがうことを選んだすべての人を、天へ連れて行ってくださいます。(ヨハネ 14:1-4) そのとき、イエスさまを信じなかった人々は、ほろぼされるのです。しかし、それ以外のすべての人は、昔死んでしまった人さえも、暗いこの世をはなれ、イエスさまと一しょに、永遠にすごします。イエスさまは、必ず来られます。

イエスさまにお会いする用意を大好きな人たちと一しょにしたいですね。

†たしかめてみよう！†

- ◇ イエスさまは、弟子たちに、父なる神さまのもとへ行ってあなたがたのために場所を用意してくる、と話されました。イエスさまは、「もどってくる」と約束されたのです。⇒ヨハネ 14:3
- ◇ イエスさまの再臨は、はっきり目に見えます。「その方が雲に乗って来られる」のです。⇒黙示録 1:7
- ◇ イエスさまの再臨のときには、大きな音がします。「合図の号令がかかり、大天使の声が聞こえて、神のラッパが鳴り響くと、主御自身が天から降って来られます。」⇒テサロニケ 1:4:16
- ◇ イエス・キリストは、力と栄光の征服者として来られます。ヨハネは、イエス・キリストが白い馬に乗り、天の大軍を連れてこられる、とそのようなことを伝えていています。⇒マタイ 16:27、黙示録 19:11-16
- ◇ イエス・キリストの再臨は、正しい人も悪い人もすべての人が、たしかに目で見ることが出来ます。⇒黙示録 1:7
- ◇ イエスさまが来られる日は、だれにもわかりません。わたしたちは、いつも用意していなければならないのです。⇒マタイ 24:36

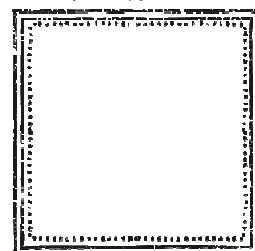
†考えてみよう！†

- ◇ イエスさまの再臨のために、毎日どのような用意ができますか？
学校に行かなくても、宿題をしなくてもよいのですか？
- ◇ 友だちがイエスさまの再臨のために用意するのを、あなたはどのように助けることができますか？
- ◇ マタイによる福音書24章に記されているイエスさまのご再臨のしるしが、あなたにもわかりますか？ その中のいくつかが起こっているのを、あなたは目にしていますか？

†やってみよう！†

- もしイエスさまが、きょう来られるとしたら、あなたがすることを書き出してください。あなたの生活の中で変えたいことは何ですか？ やめたいこと、始めたいことは何ですか？
書き出したことを1つひとつやってみましょう。そのたびに、イエスさまがまもなくおいでになることを感謝しましょう。
- イエスさまがおいでになるというよいニュースを知らせるために、老人ホームや児童養護施設をたずねてみましょう。

年 月 日



修了スタンプ欄

第26章

聖書の言葉：

「すなわち、合図の号令がかかり、大天使の声が聞こえて、神のラッパが鳴り響くと、主御自身が天から降って来られます。すると、キリストに結ばれて死んだ人たちが、まず最初に復活し」

(テサロニケの信徒への手紙1・4章16節)

春にさく花
—死とよみがえり—

「わからない。ひろきくんは死んで、お墓に入ったのに、牧師先生は、イエスさまが来られるとき、また会えるって言ったの。どうして、そんなことが起こるの？」

お母さんはわたしのかたに手を置いて、「散歩に行きましょう」とさそいました。

お母さんは、「あそこに何が見える？」と、指さしながらわたしにたずねました。わたしは景色に感動しながら、「緑の草や春の花がいっぱい見えるわ」と答えました。

「去年の冬は何が見えた？」「うーん……。茶色の土、氷、それにたくさんの雪。」

「何が景色を変えたのだと思う？」

「春が来て、雪や氷がとけて、草や花が土の中から芽を出したから？」と答えたとき、わたしは息をのみました。「そうか、草や花は土の中で待っていたんだ。目の光がさし、雨がふり、あたたかい風がふくの。そして、命が芽ばえるのを！」

お母さんはニコリしました。「うれしい春のように、復活を考えてみたらどうかしら。太陽や雨が、土から草花をよび起こすように、イエスさまは、イエスさまのことを愛し、信じて死んでいったすべての人の名前をよんで、起こしてくださるのよ。」わたしはうなずきました。牧師さんの話の意味がわかり、希望がわいてきたのです。

マリアとマルタが、兄弟のラザロをなくしてどんなに悲しんだか、覚えていますか？ かのじよたちは、数日前に人を送ってラザロのようすをイエスさまにお伝えしていました。ですから、イエスさまが来られれば、ラザロはいやされたはずでした。

ところが、イエスさまはおくれて到着されました。そして、「あなたの兄弟は復活する」(ヨハネ11:23)ので悲しまないよう、マルタに言われたのです。そんなことが起きるのでしょうか？ マルタはとまどいました。ラザロがよみがえるとしても、終わりの目の復活のときだと思っていたからです。

けれどもイエスさまのお言葉は、マルタやマリア、またラザロを愛していた人々に、大きななぐさめと希望をあたえました。イエスさまは言われました。「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。」(ヨハネ11:25) イエスさまはふたたび来られるときに、わたしたちをよび起こしてくださるのです！

十 たしかめてみよう！ 十

- ◇ 罪をおかし、神さまにしたがわなかったわたしたち人間は、みんな死にます。しかし、死はねむりのようなものです。
⇒マタイ 9:24、ヨハネ 11:11-14
- ◇ イエスさまがもどってこられるとき、イエスさまを愛して死んだ人はみんな、お墓の中からよび起こされ、空中で主にお会いします。
⇒ヨハネ 5:28、29
- ◇ すくわれた人々は天に上げられて、イエスさまとともに 1000年間（千年期）すごします。⇒黙示録 20:4
- ◇ イエスさまを信じないで、罪深いまま死んだ人たちは、ふたたび 1000年後によみがえらされます。⇒黙示録 20:5

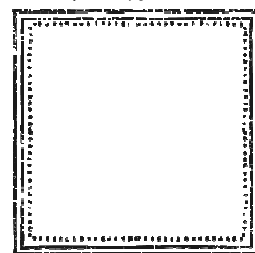
十 考えてみよう！ 十

- ◇ 最近、たいせつな人をなくした友だちがいたら、イエスさまの再臨という元気が出るニュースを、あなたはどのように伝えてあげることができますか？ 考えてみましょう。
- ◇ 聖書には、人は死んだらどうなると書いてありますか？ コヘレトの言葉 9 章 5、6 節を読んでみましょう。

十 やってみよう！ 十

- 家の庭や、ベランダのプランターに花の種を植えてみましょう。花がさきはじめたら、復活のことを感謝しましょう。
- 小さいノートを用意して、なくなったたいせつな人たち（ひと）の名前を書いてください。イエスさまの再臨の日に、この特別な人たちにまた会えることを信じ、感謝のいのりをささげましょう。

年 月 日



修了スタンプ欄

第27章

聖書の言葉：

「彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってください。もはや死はなく、もはや悲しみも嘆きも労苦もない。最初（さいしよ）のものは過ぎ（すぎ）去ったからである。」

（ヨハネの黙示録21章4節）

たき火

— 千年期と罪の終わり —

お父さんは、かれ葉をクマ手でかき集めながら、ぼくによびかけました。「近よりすぎると、まゆ毛をこがしちゃうぞ。」

ぼくは、「まゆ毛がなくなったら、きっとへんな顔に見えちゃうね」と、声を出して笑いました。そして、ぼくのくべた最後のかれ葉が、たき火の火でもえつきたので、お父さんをよびました。「お父さん、かれ葉をどんどん運んできて。お昼までに、うら庭を全部きれいにしなくちゃ。」

ぼくは、かれ葉が火でもやされて消えていくのを見ながら、数日前に読んだことについて考えはじめました。聖書は、人間が新しい世界で神さまと住むようになる前に、神さまが悪をほろぼされる、と言っています。全世界がとつ然、1つの大きな火の池のようになるのです。いたみや苦しみやすべての悪は、ちょうどこのかれ葉のように、その中でもえてなくなってしまう。

神さまを愛することも、信じることもいやがり、天国より火をえらぶ人たちを見るのは、神さまにとってうれしいことではありません。でも、そのおそろしいできごとには、大切な意味があるのです。

ぼくは、シワシワのかれ葉を1まいつまみ上げると、「おまえは、世界中の病気だ」とそれに向かって言い、たき火に投げこみました。その葉はパッと消えてしまいました。もう1まい別の葉をつかんで、「おまえは、おそれだ」と言い、火の中へ投げこみました。それもパッと消えてしまいました。神さまは、こうやって世界のよくないものを全部消してくださるんだ、とぼくは思いました。「おまえは、うそと人をだますこと」と次の葉に告げると、それもパッ！ 「おまえは、いたみ、苦しみ、心配だ」と次の葉に告げると、それもパッ！ 一番大きな葉を手にとって、ぼくはきっぱり言いました。「おまえは、死だ！」それもまた、あとかたもなく消えてしまいました。

お父さんが、「なぜ、葉っぱを1まいずつもやしているの？」と聞いてきました。

ぼくは、「うん、いつか神さまがなさろうとしていることを、ぼくもちょっとやってみているの」と答えました。かれ葉はみんなたき火に消えていき、もう、うら庭に散らかることはありません。

†たしかめてみよう！†

- ◇ 1000年のあいだ（千年期）、すくわれた人々は、イエス・キリストとともにすごします。⇒黙示録 20:1-4
- ◇ だれがすくわれ、だれがほろびるか、ということは神さまが一方的に決められるわけではありません。イエスさまが来られる前に、わたしたち1人ひとりが、自分で選んでいることなのです。
- ◇ 千年期のあいだ、サタンにはゆうわくする相手がいません。イエスさまを信じなかった人たちは、再臨のかがやきによってほろび、死んだ悪人たちは、すでにねむり続けているのです。⇒黙示録 20:2、3
- ◇ 千年期のあとに、悪人は、すべてよみがえらされ、神さまからの火が、かれらとサタンとサタンにしたがった天使たちをほろぼします。こうして地球はきよめられます。⇒黙示録 20:5、9

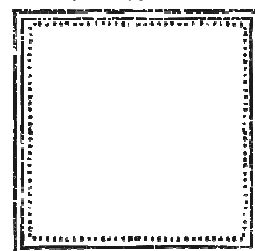
†考えてみよう！†

- ◇ イエスさまとともに生きるために、わたしたちはそれぞれ、どのような用意ができるでしょうか？
- ◇ どうすれば、わたしたちは、毎日サタンのゆうわくをきっぱりことわり、イエスさまとともにいることができると思いますか？

†やってみよう！†

- もし大人といっしょにたき火をすることがあれば、あなたが毎日戦っている罪やゆうわくを紙に書いて、それを火にくべてください。この世から罪や苦しみが永遠に消しされるとき、どれほどの喜びが神さまの心にあふれるでしょうか？

年 月 日



修了スタンプ欄

第28章

聖書の言葉：

「しかし、いと高き者の聖者らが王権を受け、王国をとこしえに治めるであろう。」

(ダニエル書7章18節)

はりのない時計

— 新しい地 —

「あんなめずらしい時計、今まで見たことがないや」と、ぼくは青木のおじさんに言いました。青木さんは、町の大きな通りに小さなこつとう品店を開いています。

「そうだね、あの時計には、1本もはりががないんだ。たぶん、ずいぶん前になくなったんだろうね。あれを買ったのは、天国について教えてくれているからなんだ」と、青木さんは言いました。「それは、どういうこと？」

すると、ぼくのほうへ来て、そばに立ち、こう言ったのです。「きみときみの家族も同じだと思うけど、わたしの家族は、天国に住むのを心待ちにしているんだ。かわいい動物たちと遊んだり、命の木のおいしい実を食べたり、太陽系の外までロケットのように飛んでいったり、イエスさまとおしゃべりをしたり、楽しいことがいっぱいさ。あの古い時計は、そんなワクワク、ウキウキするようなことを天国では永遠にできる、とわたしに思い出させてくれる。天国には時間というものがないんだ。時計もない。予定もない。あるのは、ゆったりとした平和と喜びだけなんだ。」

ぼくは、「すてきだね！」と言いました。青木さんのこうふんが少し伝わってきたからです。ぼくはじっと考えながらつぶやきました。「ということは、ぼくが、ライオンに、『夕食後、川で会おう』なんて約束しないかぎり、天国には守らなきゃいけない約束はないんだ。」「でも、きみはどんな約束にもおくれることがないんだよ。だって……時間そのものがないからね」と、青木さんはニッコリ笑いました。「ただ、永遠に楽しい。それって、すごいことだと思わないかい？」

ぼくは、はりのない時計を見て、うなずきました。「ぼくも1つ買わなきゃ。」すると、ぼくの友だちでもある青木のおじさんは、笑顔で言いました。「さあ、プレゼントだよ。これを持っていきなさい。これを見るたびに、天国のことを思うといい。」

あのはりのない古時計は、今ぼくのベッドのそばにあります。それを見るときいつも、楽しい時間だけがある場所に住むって、どんな感じなんだろう、と考えるのです。

イエスさまがおいでになるのが、待ちきれないなあ！

†たしかめてみよう！†

- ◇ サタンや罪人がいなくなったあと、天のお父さまは、わたしたちが楽しむために、まったく新しい世界をつくられます。
- ◇ 1000年間（千年期）のあと、聖なる都、新エルサレムが地球にくだってきて、神さまは、すぐわれた人々といっしょに「神さまの家庭」を永遠にきずかれます。
- ◇ ヘブライ語で、「エルサレム」は「平和の町」という意味です。
- ◇ 新しい地は、神さまとイエスさまがおられるうつくしい場所です。
⇒黙示録 22:3-5
- ◇ 神さまとサタンの戦いが終わると、罪はなくなります。そして、世界から罪人がなくなります。
- ◇ 神さまを愛するすべての人は、このすばらしい世界を、神さまとともに永遠に楽しみます。 ⇒黙示録 11:15

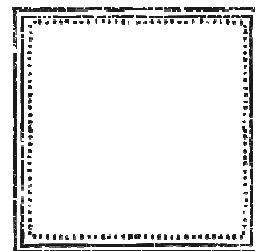
†考えてみよう！†

- ◇ 新しい地で、神さまやイエスさまに、どんな質問をしたいですか？
いくつか書き出してみましよう。
- ◇ 今はできないけれど、新しい地でなら、できることがたくさんあります。特に、何をしてみたいですか？

†やってみよう！†

- いらなくなった時計をさがして、すべてのほりを取りはずしてください。それを毎日見える場所に置きましょう。あなたも、時間のない国で永遠に生きることが、待ち遠しくなることでしょう。

年 月 日



修了スタンプ欄



1. 神さまの言葉

わたしは、神さまが、聖書を書いた人々に靈感をあたえられた、と信じます。かれらが書いたことは、すべて正しく、わたしがしあわせで元気に生活するのを助けてくれます。

2. 三位一体の神さま

わたしは、わたしを愛しておられる神さまが、じっさいには、父・子・聖霊の神さまが、1つにぴったりと結びあったお方だ、と信じます。父・子・聖霊の神さまは、もっとよい生き方、もっと意味のある生き方をわたしに教えるため、熱心に働いてくださいます。

3. 父なる神さま

わたしは、父なる神さまが、わたしやうちゅうのすべてのものを生かし続けるお方だ、と信じます。神さまは、やさしく心の広いお方で、決してわたしを 1 人ぼっちには、なさいません。

4. 子なる神さま

わたしは、子なる神であられるイエスさまが、世界とその中のすべてのよいものをつくられた、と信じます。およそ 2000 年前に、イエスさまは、この世に赤ちゃんとして来られ、成長し、罪のない生活をし、十字架の上で死なれました。そのおかげで、わたしもいつか、イエスさまとともに、天国で永遠に生きることができるのです。

5. 聖霊なる神さま

わたしは、こわいとき、かなしいとき、あるいはさびしいときに、聖霊なる神さまが、わたしの心にそっと語りかけてくださる、と信じます。その声は、「だいじょうぶ！」と言ってくれます。聖霊は、わたしが罪をおかすときに、悪いと感じさせ、また神さまの愛の律法にしたがうときに、喜びを感じさせ、よいことと悪いことの区別を教えてくださいます。

6. 創造

わたしは、神さまがすべてのものを 6 日間で創造なさり、7 日目に休まれた、と信じます。海、山、木、動物、アダムとエバなどをつくり終えられると、神さまは、ご自分が創造されたものをごらんになって、うれしそうに「これはたいへん良い！」とおっしゃいました。

7. 人間の性質

わたしは、神さまが、人間を神さまにかたどってつくられた、と信じます。人間は、自由に考え、自由に動くことができます。罪や悪が、多くの人々をいためつけ、苦しめてきましたが、それでもわたしたちは、神さまの子どもです。神さまは、わたしたち 1 人ひとりを気にかけておられますが、わたしたちも同じように、聖霊の助けによって、おたがいを気にかけることができます。

8. 大いなる戦い

わたしは、人間をほろぼしたいと思っているサタンが、ほんとうにいる、と信じます。サタンは、すべてをだめにしてしまう罪を、わたしたちの生活に持ちこもうと、毎日けんめいに働いています。神さまは、わたしたちが毎日、喜び、しあわせ、愛に生きることを望んでおられます。神さまとサタンは、わたしたちの生活やしょうらいを勝ち取る戦いをしているのです。わたしたちが、罪に打ち勝つのを助けるために、イエスさまは、聖霊や天使を送り、わたしたちをみちびき、守ってくださいます。

9. イエスさまの一生と死とよみがえり

わたしは、罪に打ち勝てることをしめすために、イエスさまが完全な一生を送られた、と信じます。イエスさまが、十字架で死なれたので、わたしは、自分の罪のために、天の家を失わなくてすむのです。また神さまは、イエスさまを死から生き返らせることによって、もしわたしが、イエスさまのご再臨の前に死んでも、どのようにわたしをよび起こされるかをしめしてくださいました。

10. すくいの体験

わたしは、心の中におむかえしたイエスさまが、わたしを罪人から、天国で永遠に生きる用意のできた神の子へ変えてくださる、と信じます。わたしが、聖書を読み、聖霊の親切なみちびきにしながらうとき、どのようにしたら、イエスさまのようになれるのかがわかります。わたしは、イエスさまのおかげで、自分がゆるされていること、自分を待っている家が天国にあることを、心から信じることができます。

11. キリストにある成長

わたしは、だれでも、イエスさまを心におまねきすれば、すぐに変化が起きる、と信じます。その人が読むもの、テレビやインターネットで見るもの、食べたり聞いたりするもの、行く場所、話す言葉さえも変わります。聖書が、生活の教科書のようになり、いのりの言葉が、口からあふれ出てきます。このような変化は、イエスさまがおいでになるときまで、くる日もくる日も続いて起こります。

12. 教会

わたしは、イエスさまを愛する人々が、おそれやはずかしさを感じることなく、いっしょにさんびできる場所が教会だ、と信じます。毎週、楽しい家族の集まりに出席するようなのです。イエスさまは、ご自分の教会を愛し、そこで話される言葉や、歌われるさんび歌を聞いておられます。

13. 残りの人々とその使命

わたしは、イエスさまがふたたびおいでになる前に、教会の中のある人々は、すくいよりも罪を選ぶ、と信じます。聖書に忠実にとどまって、聖霊の声に聞きしたがう人々は、「残りの人々」とよばれ、神さまの愛を世界に伝えるために、一生けんめい働きます。残りの人々は、イエスさまがおもどりになれるよう、神さまのために、すばらしい仕事をなしとげるのです。

14. キリストの体における一致

わたしは、神さまを礼拝する教会は、どこの国の人も、どんな言葉を話す人も、どんな人でも、かんげいしなければならぬ、と信じます。わたしたちは、神さまの目にはみんな平等です。どのように見えても、どのように聞こえても、ちがいはありません。わたしたちはみんな、同じ天のお父さまの子どもなのです。

15. バプテスマ

わたしは、バプテスマを受けるというのは、自分が神さまを愛していること、神さまのために働きたいと願っていることを人々に告げることだ、と信じます。バプテスマは、わたしたちが、けがれた罪人としてほうむられ、イエスさまのために、新しいきよい生活を送るためによみがえることをあらわしています。

16. 聖さん式

わたしは、イエスさまが十字架にかかれる前、弟子たちと最後の食事をされたときに、すばらしいことを教えられた、と信じます。イエスさまはこのとき、パンはさかれるご自分の体、ぶどうジュースは流されるご自分の血をあらわしている、と言われました。教会で、聖さん式に加わると、イエスさまが、十字架でわたしのためにはらってくださった犠牲を、思い出すことができます。

17. 霊のたまものと奉仕

わたしは、神さまにご奉仕するためにもちいる特別な能力を、神さまからあたえていただいている、と信じます。わたしたちには、それぞれ、音楽、絵、説教すること、教えること、聖書研究をすること、おみまいに行くこと、教会に来られたお客さまをかんげいすること…など、いろいろな能力があたえられています。どの霊のたまものも、神さまの働きのためにたいせつなものです。

18. 預言のたまもの

わたしは、神さまの教会の人々が、生活のしかたや、しょうらい起こることを知るために助けを必要としている、と信じます。神さまは、エレン・ホワイトという女性を預言者を選び、ご自分の教会の人々に、指導、教育、訓練をおあたえになりました。かのじょはまた、わたしたちが、聖書の中のたいせつな教えを理かいてできるように助けてくれます。神さまの預言者が、ずっと前に書いた本を読むとき、神さまが今のわたしにおっしゃりたい重要なことを発見できます。

19. 神さまの律法

わたしは、神さまの十戒が生きるための最高のきそくだ、と信じます。それは、わたしを罪から守り、問題にまきこまれないように助けてくれます。それは、神さまがどれほどわたしを愛し、健康でしあわせな生活を送るように願っておられるかを、あらわしています。十戒にしたがうことは、「神さまありがとう」と、神さまに言うことです。

20. 安息日

わたしは、神さまが第7日目（土曜日）をきよい日にされた、と信じます。神さまは、わたしに、特別なことをこの日にしなさい、と命じておられます。わたしが、神さまはすべてのよいものの創造者である、と信じていることをしめすためです。神さまのきよい安息日は、金曜日の日没から始まり、土曜日の日没に終わります。

21. 管理者のつとめ

わたしは、すべてのものは（木、花、動物、そしてわたしさえも）神さまのものだ、と信じます。神さまはわたしに、神さまがおつくりになったものの世話をし、（自分をふくむ）すべてのものを害から守りなさい、と求めておられます。ですから、わたしは、神さまの創造されたものをたいせつにします。神さまの管理者であることが、どんなにほこらしいかをあらわすために、わたしは自分の時間、能力、お金などの十分の一（10 パーセント）を忠実に返します。わたしは、神さまに、この世界とその中のすべてのものを祝福していただきたい、と願っています。

22. クリスチャンのふるまい

わたしは、イエスさまを愛する人はだれでも、サタンを愛する人とはちがった話し方、食べ方、勉強のしかた、遊び方をすべきだ、と信じます。わたしがするすべてのことは、イエスさまが、わたしの心の中におられ、わたしが、イエスさまの愛のきそくにしがたって、生きようとしていることを、人々にしめすものでなければなりません。

23. 結こんと家庭

わたしは、天国ですごく喜びをわたしたちがわかるために、神さまは、この地上で家庭をつくるようにすすめておられる、と信じます。わたしたちが、きょうだいやりょうしん、おじさんやおばさん、おじいちゃんやおばあちゃんを愛するとき、神さまを愛し、神さまにしたがう人々と天国ですごくすることがどのようなものかを、体験しているのです。わたしたちの天のお父さまは、地上の家庭が、神さまの愛とゆるしを学ぶための安全な場所であることを願っておられます。

24. 天の聖所でのキリストの働き

わたしは、イエスさまが、天で今なさっておられることを説明するために、「あれ野に幕屋をつくりなさい」と、神さまが、モーセとイスラエルの人々にお命じになった、と信じます。あれ野では、祭司が、悪を行った人をさばき、罪をゆるしました。今、イエスさまが、天でなさっておられるのは、まさにこれです。イエスさまは、わたしたちをゆるし、心の罪をきよめ、ついには天国へむかえるのを待っておられる、天の祭司なのです。

25. キリストの再臨

わたしは、いつかまもなく、イエスさまが、この地上にもどられ、イエスさまを愛し、イエスさまにしたがう人々を天へまねいてくださる、と信じます。イエスさまが来られるとき、イエスさまを信じなかった人々は、ほろぼされます。しかし、そのほかの忠実な人々は、すでに死んでいる人々でさえも、この暗い世界をはなれて、イエスさまと永遠にすごします。

26. 死とよみがえり

わたしは、イエスさまが、人間を死からよみがえらせることがおできになる、と信じます。イエスさまは、地上におられたときに（ラザロやナインのやもめのむすこを）そうなさいましたし、再臨のときに、ふたたびそうなさいます。だから、たとえわたしの家族のだれかが、お墓の中にねむっているとしても、死より強い神さまの力によって、ふたたび会えるのです。

27. 千年期と罪の終わり

わたしは、いつの日か、罪が永遠になくなり、罪人が永遠にいなくなる、と信じます。聖書には、神さまを信じずに死んだ人々でさえ、サタンが言ったことはウソだったとわかり、神さまの愛と正しさをみとめる、と書かれています。神さまに守っていただけないサタンと罪人たちは、聖なる都を取り囲みますが、天からくだる火で完全にほろぼされます。

28. 新しい地

わたしは、サタンと罪人がいなくなったあと、天のお父さまが、新しい世界を創造される、と信じます。そこにはもう、死も、なみだも、いたみも、苦しみもありません。すべてが、平和と愛に満ちています。一番すばらしいことは、わたしも、わたしの家族も、神さまを愛するすべての人が、このすばらしい世界を永遠に楽しめるということです。